

2020

読み聞かせ絵本適書100選

第 8 集

兵庫県学校厚生会
本をよむなかよし会

はじめに

兵庫県学校厚生会では、これまでから退職教職員の豊富な経験と知識を活用して、県内各地域で「本をよむなかよし会」を開き、子どもたちが本好きになるための読書活動を進めてきました。出発は1987年、西宮の1会場から始まり、2019年度には36会場となり、熱心な先生方のご指導のもと、子どもと保護者の方たちがいっしょになって楽しい読書活動が行われています。

子どもが本に親しみをもち、本を好きになるということは、心を豊かにし、自ら考える子どもを育てるということでもあります。この願いのもとに、現在までそれぞれの会場で数多くの本が読まれてきました。

この読み聞かせの実践活動から、当会では多くの方に特に読んでほしい絵本を選び、『読み聞かせ絵本適書100選』を発行しています。1992年から2015年までの間に7冊の『適書100選』が編纂されました。

絵本は時代と人々の心を反映して、新しいものが次々と出版されています。日本の創作童話や外国の民話や童話など心にひびく絵本に加え、昔から多くの人に親しまれてきた日本の昔話が、鮮やかな色彩や心打つことばによって新しい生命を吹き込まれています。

この度、その後出版された新刊本も含め、指導の先生方から推薦を受けた素晴らしい絵本を『適書100選 第8集』として作成しました。

この絵本は子どもを対象としていますが、年齢に関係なく楽しめるものです。学校はもとより、家庭や地域において、この『適書100選 第8集』が活用され、本との出会いを通して、多くの本好きな子どもが育つことを期待しています。

最後になりましたが、この冊子の作成にご尽力いただいた方々や、各会場の関係者に心からのお礼を申し上げます。

2020年2月

一般財団法人 兵庫県学校厚生会

理事長 川原 芳和

「読み聞かせ絵本適書100選 第8集」について

1. この冊子は兵庫「本をよむなかよし会」の県内各会場で最近5か年間に読まれた1,000冊以上の絵本のうち、子ども達の反応がよく、指導員も納得した100冊を選定して収録したものです。既刊の「適書100選 第1集」から「同第7集」との重複は避けました。但し、日本の昔話については、意外と知られていないものや、また、絵や文が改められているものがあり、審議を重ねて加えた絵本もあります。
2. 主に小学校1年生を対象にしていますが、これらの本は3歳程度から年齢に関係なく、幅広く読まれています。
3. この冊子の絵本の配列は、分類別・五十音順にしています。
 - ①日本の創作童話（主として現代の話）
 - ②日本の昔話（創作・民話を含む）
 - ③外国の童話・民話
 - ④理科的な認識を育てるもの
 - ⑤社会的な認識を育てるもの の5分類としました。選書は、季節や行事に合わせるのがより効果的です。
4. 「読み聞かせ」と一般的に言われますが、「本を読んでやる」「本を読んであげる」というのではなく、「子どもといっしょに本を読むことを楽しむ」という意味あいから「本をよむなかよし会」と名付けられた発足時の気持ちを大切に温かい心いっぱいの読みを楽しんでいただきたいと願っています。
5. この冊子を参考にして「本をよむなかよし会」の活動がより進み、さらに広がることを期待します。また、家庭でも子どもと共に本を読む場が増えていけばうれしいです。
6. 本の貸し出しをしている会場では、子ども達が毎回借りて帰るようになり、次々と広がりが増している現状をうれしく思います。
7. この冊子が作成できたのは、それぞれの会場で活動している指導員（退職教職員）の熱意あつてのことです。次のページに名前を掲載し、敬意を表します。

兵庫県学校厚生会「本をよむなかよし会」

編集委員長 日高 敬了

兵庫「本をよむなかよし会」実施会場・指導員一覧

神戸

神戸：ラッセホール	上野由利子・木村 文枝・小林 洋子・谷口 十絲 富山 郁三・鍋野 定子・西嶋 嘉代・村田 洋一
神戸：成徳小学校	岩本しず子・佐藤 敬子・仲野 麗恵・平島 久子 前川 拓子
神戸：真陽小学校	青木 博江・井上紀久子・加藤 悦子・丸山喜久子 宮田由美子・山下喜代子
神戸：若宮小学校	大東 知子・高德 妹子・坂本 博・廣江 悦子 細見 悦子・森本寿恵子
神戸：御影小学校	板倉 孝枝・河合 和子・小崎佳奈子・浜 松代 日高 敬了・松本 信子
神戸：藤原台小学校	井本 勝代・北野 瑛子・近藤視紀子・森 義子 安嶋 温子
神戸：小部東小学校	魚田 文子・鍵澤美智子・梶田 治・金田 敏子 本城 正也・山口美紀子
神戸：兵庫大開小学校	赤穂はるみ・清水 敬子・鈴木かづ子・竹添有美子 竹田 淑子・福井 礼子
神戸：桜が丘小学校	石田 皎子・内田たみ子・黒瀬 仁美・仲井 廣子 福家 博子

阪神

西宮：高木小学校	加納千香子・川口耕三郎・木村 光代・竹川由美子 谷口 蓉子・鳥屋尾悦子・真鍋 和子
西宮：瓦林小学校	伊賀上ミエ子・菊池安輝子・小山 早紀・中谷 昌子 山本 秀夫
西宮：段上西小学校	井上由紀恵・渋谷 靖子・長谷川真理子・原田 叔子 野村 紀子
西宮：津門小学校	鎌田クニ子・田中佳世子・原田佐知子・松村真理子 室田江美子・山下千佳子
尼崎：潮小学校	田中 千恵・谷田五沙子・長谷川美枝子・前田志津子 峯尾 敦子・室津 晴美・山形須美枝・山田 久子 山本 巖・好村 勝子
宝塚：小浜小学校	青木美枝子・近藤 充子・下坂 陽子・仲谷 映子 細川 洋子・松屋喜三郎・山岡 篤子・山住栄美子 由良 典子・渡辺 千枝

宝 塚：末成小学校	西田美代子・山田 栄子・上地 和子
宝 塚：宝塚第一小学校	今井八千代・大林 正治・川島 淳子・倉 孝子 正中 忍・竹村 幸子・田中 依子・福長 曾子 藤井 富貴・松浦 辰子
伊 丹：伊丹市立総合教育センター	足立 恵子・梅木 節子・大倉 紀子・門脇 栄子 後藤 千春・住田ます恵 辰野イサ子・長江 京子 橋口 信子・藤井 恵子・福田美世子・丸山 佳子 山形 晴子・山本 真美・横山 明子

東 播

加古川：農村環境改善センター	阿部 忠彦・市川 悦子・大館美千子・川津 法子 古賀 雅代・坪井千代子・丹羽美紀子・納庄 雅子 前田 功・前田香代子・宮崎 逸美・守澤恵理子 山本たか子
明 石：明石出張所	安達 淑子・小黒 幸子・木村 雅代・芝野 文子 砂川 悦子・高畑みどり・西馬 静子・藤尾 敬子 藤田 輝子・水野千加子・宮本奈保子・山本 和恵 山本 順一・湯本 弥生・吉田 律子

北 播

西 脇：萩ヶ瀬会館	遠藤 邦子・川瀬 博子・津田寿々江・長井 好美 藤原由紀香・萬浪 友子・安平富由美
加 東：北播活動センター	岸本八千代・菅野 和子・鷹尾 淑子・瀧原 秀子 出井 由紀・長谷川まり子・増田 洋子・依藤 洋子
小 野：コミュニティセンターかわい	稲岡 直美・河合 久美・河島 和子・北山たづ子 田中 道子・藤井 博美・松本 昌子・山本 秀美

中 播

姫 路：姫路市教育会館	浦田 晴美・岡本 栄子・木村 通子・古門美代子 小林 孝子・菅野 敦子・高橋 浩三・田中 純子 沼田 一女・日和 環 前田きみ代・保井 治夫
-------------	--

西 播

西播南：西播活動センター	池田 雅子・尾野 和代・瀧口 京子・武内 美幸 平形喜代美・吉田 裕子
西播北：山崎幼稚園	浅田 暁美・川戸 富子・黒田 玲子・下多 睦子 土居 純子・春名 栄子・森谷多佳子・山根 直美

但馬

豊岡：豊岡市教育会館	安達 美穂・上田 美幸・組原 祥子・谷口美代子 中谷 志保・西垣きよみ・眞住 泉子・丸岡 良子 宮代 裕美
日高：但馬活動センター	黒川八重子・田中 明子・中村 順子・林 悦子 正木喜美子
和田山：朝来市和田山農業 振興センター	朝倉 式子・上地恵津子・小谷 敦子・椿本 政枝 原田 智文・森本真佐子

丹波

三田：三輪会館	今北 米子・大西 恵子・小西加代子・森鼻 幸子
柏原：丹波活動センター	芦田ひとみ・足立 勲・足立 紀子・太田江美子 小笠原繁則・田中 哲代・谷垣 恭子・谷口 和子 西田喜代美・松田 雅子
市島：ライフピア市島 ※2015年度で閉会	芦田 和子・小笠原繁則・坂谷 美純・土田 高子 細見けい子・余田 泰子
水分れ：水分れ資料館	足立 達枝・足立 和子・上田 洋子・大西 忍 荻野 京子・田中久美子・田野 生子・徳田 隆代 中川 庸子・西山かすみ・細見 和代・山根万貴子
篠山：ふじわら文庫	上野アサ子・荻野多津子・北村 典子・後藤 アヤ 小林まり子・辻 あさみ・福井 悦子・矢尾まち子 吉田千佳子

淡路

洲本：洲本市 総合福祉会館	勘舎 達雄・小西 凱子・高田 和子・中尾 紀子 濱辺 房子・船瀬 芳信・山本 信子
津名：稻家記念館	大山 朱実・梶野 昭子・近藤多賀子・岨 博子 中嶋 明美・中谷 光夫・西川 玉士

※指導員は、各会場の2015～2019年度の関係者とし、五十音順

「読み聞かせ絵本適書100選 第8集」

編集委員 鎌田クニ子・小西加代子
芝野 文子・谷口 十絲
日高 敬了

目 次

分類番号

はじめに	1
「読み聞かせ絵本適書100選 第8集」について	2
兵庫「本をよむなかよし会」実施会場・指導員一覧	3
目次	6
レイアウトについて	9
1. あいたくてあいたくて	①.....10
2. あな	①.....10
3. あむ	①.....11
4. うきこのサンタクロース	①.....11
5. うみのポストくん	①.....12
6. オオカミのごちそう	①.....12
7. おこる	①.....13
8. おじいさんと10ぴきのおばけ	①.....13
9. おにのおにいさん	①.....14
10. おもちのおふろ	①.....14
11. かかしのじいさん	①.....15
12. 風の子しりとり	①.....15
13. きょうはそらにまるいつき	①.....16
14. くもりのちはれ せんたくかあちゃん	①.....16
15. サラダとまほうのおみせ	①.....17
16. さるのてぶくろ	①.....17
17. しまふくろうのみずうみ	①.....18
18. ぞうきばやしのすもうたいかい	①.....18
19. ぞうさんのふしぎなぼうし	①.....19
20. そらの100かいたでのいえ	①.....19
21. たいふうがくる	①.....20
22. たいぶつさまのうんどうかい	①.....20
23. ちゅーちゅー	①.....21
24. チリンのすず	①.....21
25. 手おけのふくろう	①.....22
26. どこへいくの? ともだちにあいに!	①・③.....22
27. ともだちほしいなおおかみくん	①.....23
28. とんでもない	①・⑤.....23
29. ヒヒヒヒヒ うまそう	①.....24

30.	ふしぎなともだち	①	24
31.	ふぶきのと	①	25
32.	へんしんトイレ	①	25
33.	ほとんぼとんはなんのおと	①	26
34.	ポレポレやまのぼり	①	26
35.	まぼろしのゆきのはらえき	①	27
36.	やさいのおしゃべり	①	27
37.	山のとしょかん	①	28
38.	ゆうたはともだち	①	28
39.	おにはうち ふくはそと	②	29
40.	じゅうにしのおはなし	②	29
41.	たべられたやまんば	②	30
42.	ほうまんの池のカッパ	②	30
43.	やまなしもぎ	②	31
44.	あかいはねのふくろう	③	31
45.	あかねこくん	③	32
46.	いそっふのおはなし	③	32
47.	おうさまのくつ	③	33
48.	きつねくんのもりのおともたち	③	33
49.	きつねのホイティ	③	34
50.	こいぬのうんち	③	34
51.	コッケモーモー!	③	35
52.	しずかなしずかなクリスマス・イヴのひみつ	③	35
53.	シナの五にんきょうだい	③	36
54.	10ぼんのぷりぷりソーセージ	③	36
55.	すえっこおおかみ	③	37
56.	ずどんといっぱつ すていぬシンプ だいかつやく	③	37
57.	ゼラルダと人喰い鬼	③	38
58.	ちいさいきみとおおきいぼく	③	38
59.	チトくと にぎやかないちば	③	39
60.	どろんここぶた	③	39
61.	ピーターのいす	③	40
62.	ひとりぼっちのかえる	③	40
63.	ほんとうはなかよし～エルモアとアルパート～	③	41
64.	まめつぶごぞうパトゥフェ	③	41
65.	ゆかいなかえる	③	42
66.	わたしをわすれないで	③	42

67.	あしのうらのはなし	④	43
68.	いっしょだよ	④	43
69.	いのちのたべもの	④	44
70.	うまれたよ！ モンシロチョウ	④	44
71.	おいもができた	④	45
72.	おかしなゆき ふしぎなこおり	④	45
73.	おしりポケット ウォンバットのあかちゃん	④	46
74.	おなかのこびと	④	46
75.	かさぶたくん	④	47
76.	くだもの	④	47
77.	じめんのしたの小さなむし	④	48
78.	たまごのはなし	④	48
79.	ダンゴムシ	④	49
80.	たんぼのカエルのだいへんしん	④	49
81.	どんぐりかいぎ	④	50
82.	ほんとのおおきさ動物園	④	50
83.	みずとはなんじゃ？	④	51
84.	雪の上のなぞのあしあと	④	51
85.	いもさいばん	⑤	52
86.	うおいちば	⑤	52
87.	ええところ	⑤	53
88.	おじいちゃん、おほえてる？	⑤	53
89.	おしっこちょっぴりもれたろう	⑤	54
90.	心ってどこにあるのでしょうか？	⑤	54
91.	すごいね！ みんなの通学路	⑤	55
92.	だいすきなおばあちゃん	⑤	55
93.	たからものみつけた！	⑤	56
94.	タンポポ あの日をわすれないで	⑤	56
95.	ちっちゃなトラックレッドくん	⑤	57
96.	てをつなぐ	⑤	57
97.	どんなかんじかなあ	⑤	58
98.	はなちゃんのみそ汁	⑤	58
99.	パパの柿の木	⑤	59
100.	わたしのそばできいて	⑤	59



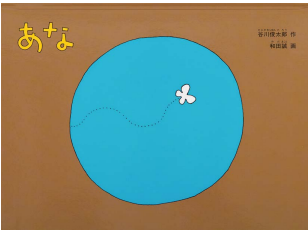
1. あいたくてあいたくて

①

(文)・(絵) みやにし たつや
女子パウロ会

あばれん坊で嫌われ者のおおかみが、やっぱり嫌われ者でひとりぼっちのケムシと出会い、とてもさみしい自分の心に気付く。「ずっとずっといっしょにしよう。」と約束した二人は、いつもいっしょに楽しく遊んでしあわせだった。ところが、ある日おおかみは、またひとりぼっちになってしまう。毎日、ケムシを探しまわるおおかみの姿に子ども達は、どうなるのかなあと心配そうな表情で聞いていた。春がきたある日、空から「ファーフー」と小さな声。ちょうになったケムシとの再会に子ども達の表情も和んだ。

おおかみとケムシ。どう考えても結び付かない二者。悪いイメージで捉えられがちな二者。その二者が、さみしい気持ちを共感し合う姿に感動し、相手を大切に思う心が随所から伝わってくる作品である。



2. あな

①

(文) 谷川 俊太郎
(絵) 和田 誠
福音館書店

子ども達は、題名に興味を示した。主人公のひろしは、ひたすら「あな」を掘る。次々にやって来る家族や友達の「なにしてるの」という問いかけにも、明確に答えずただ掘り進む。自分の身体が入る位の深さまで掘りその中に座り込み、土の匂いや壁の感触にひたる。そして、満足したかのように「あな」を埋めもどすのである。

この本が魅力的なのは、穴掘りという子どもにとって身近な題材だからである。しかも掘るだけでなく、埋めもどす作業がより達成感につながっている。表紙はひろしが穴底から地上を見上げた景色になっているし、裏表紙は埋めもどす前に地上から穴底をのぞき込んだ絵になっている。それぞれひろしの気持ちを代弁しているようだ。また絵本を横にして下から上へめくる装丁も題材に合っている。単純な筋だけに作者の意図を各々の受け止め方で楽しめる絵本だ。



3. あむ

①

(文) 小風 さち
(絵) 山口 マオ
福音館書店

黒くて大きい犬、ラブラドル・レトリバー「あむ」。飼い主「かっちゃん」はある日、「あむ」をおいて友達と海へ出かけてしまう。「かっちゃん」が恋しい「あむ」はけんめいに追いかける。田んぼを通り、踏切を渡り、落ちた魚を食べてお腹を痛くしては、「かっちゃん」の一言を思い出し、しょげる「あむ」。やっとのことで海へ。感動の再会で冒険は終わる。いとおしくも切ない友情に子ども達からあんどのため息が広がった。

野性味あふれるコラージュはページからはちきれんばかり。「あむ」の一人語り小気味よいリズムを刻む。子ども達は身をのりだして、うなずきながら話を追いかけた。読後、夏空のような爽快感が残る。巻末に「あむ」の足取りマップ付きで、遊び心満載。



4. うさこのサンタクロース

①

(文) 矢崎 節夫
(絵) 黒井 健
フレーベル館

「あかちゃん ください。」と、うさぎのうさこが、サンタクロースに手紙を書いた。

クリスマスは、子ども達の夢、プレゼントは、待ち望むもの！題名と表紙で、もう興味津々である。うさこが望むプレゼントは、赤ちゃん。動物達は、必死に相談し合うが、誰もあげることができない。そこへ、お母さんが、お腹に赤ちゃんがいることを発表する。うさこは、大喜び。動物達も大喜び。そして、子ども達も大喜びになる。

うさこのために頑張る動物達のやさしさ、お母さんとうさこの親子の温かさ、そして、産まれてくる赤ちゃんへの想い。子ども達に愛の素晴らしさをプレゼントしてくれる1冊である。



5. うみのポストくん

①

(文) 山下 明生
(絵) 村上 康成
教育画劇

ダイバー達が利用するポストが海の中に立っていた。そこにタコが住みつきたくさんの子ダコが生まれる。楽しく暮らしていたのにある日嵐に襲われる。ポストの発案で子ダコ達の墨で一斉にSOSの信号を送る。信号に気付いた魚達の奮闘で子ダコもポストも助かり、子ダコ達と暮らすポストは海の人気者になる。

子ども達は心配したりSOSを送るという知恵に感心したり、最後はきれいな海の中で楽しく暮らすポスト君達に想いを巡らせたりしているようだった。

登場人物の誰もが心やさしくて明るく、プラス思考展開で、子ども達が素直に受け止められる内容である。とりわけかわいい子ダコ達が紙面いっぱい広がる光景はほほえましく、心楽しませるものだった。絵にもやさしさがあふれる素晴らしい作品である。



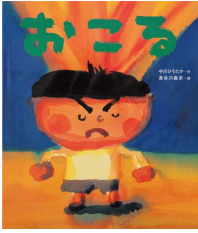
6. オオカミのごちそう

①

(文) 木村 裕一
(絵) 田島 征三
偕成社

オオカミが、見つけた時よりどんどん太っておいしそうになっていくコブタを思い描きながら追いかけていく話である。途中でウサギやシカ等に出会っても、目もくれずに一途に追いかけて、やせ細るオオカミと想像の中で丸々太っていくコブタの絵が、対照的に描かれている。子ども達は、次はどうなっていくのか楽しみで目を輝かせ、話の世界に入り込んでいた。

頭の中で、どんどん太っていくコブタの様子が、赤い円の中に強調して表現され、オオカミの食欲が増していくことがよく分かる。それに比べ、やせ細っていくオオカミの表情やことばが興味深く、次ページへの期待をふくらませる。



7. おこる

①

(文) 中川 ひろたか
(絵) 長谷川 義史
金の星社

毎日怒られてばかりのぼく。朝寝坊して、好き嫌いして、兄弟げんかして、宿題を忘れて、数え上げたら切りがない。ぼくは、逃げ出したくなる。友達のけんちゃんは、ちょっとしたことですぐに怒り出す。ぼくも妹やお父さんお母さんに怒ることがある。だけど怒った後の心はどんより。やっぱりぼくは、なるべく怒らない人になりたいなあ。子ども達は「うんうん、ぼくも同じだ。」と、うなずきながら聞いている。

子どもは人間の原点、根っこ。怒るという行為も人間の根っこである。この絵本を読んで、なるべく怒らない人になりたい、なってほしいと願う作者の心が伝わる。



8. おじいさんと10匹きのおばけ

①

(文)・(絵) にしかわ おさむ
ひかりのくに

一人暮らしで、何をやる気もないおじいさんのところに、ある日、友達のおばあさんからプレゼントが届いた。その箱をあけると10匹のおばけ達が飛び出してきた。そのおばけ達と暮らしていくようになって、おじいさんはどんどん元気になっていった。

おばけというと、こわいというイメージがあるが、この作品のおばけは、かわいくて、ちょっぴりやんちゃで、頼りにもなる。またおじいさんもやさしく、いい関係を作っていくのである。

絵もかわいく、おばけ達のしぐさや表情を見ながら読みすすめていくとよけいに楽しむことができる。

特に幼児にピッタリの話である。心温まる物語でやさしい気持ちになれる絵本である。



9. おにのおにいさん

①

(文)・(絵) さいとう しのが
ひさかたチャイルド

「おにのおにいさん おにくがだいすき」ではじまる節分の日の話。おにのおにいさんは、新しくできた町のレストランへ人間に変装して出かける。町へ着くと周りはおにばかり。おにんぎょう、おにしめ、オニオンスープ。おにのことはおにのおにいさんはびっくり。自分がおにだと分かってしまったかなと、あわてて山へにげかえる。次の日、友達のオニールがおいしいお肉を持ってきてくれ、いっしょにステーキを食べているおにのおにいさんに子ども達もほっこり。

子ども達は、リズムカルなことばと、絵に興味津々。おには乱暴者ばかりではなく、気の弱いやさしいおにも居ることを知った話。子育て中の作者が子どもの無事を祈ってのことば遊び絵本。



10. おもちのおふろ

①

(文) 荻田 澄子
(絵) 植垣 歩子
学研

さむいさむい日、おもちのもーちゃんとちーちゃんが、おふろやさんへ出かける。えっおもちがおふろへ行くの？ おもちがおふろに入ったらどうなるの？と、すぐに絵本にひき込まれた子ども達。おもちの二人がおふろやさんのとびらを開けると、そこには、しょうゆの足湯やきなこの砂風呂などが。子ども達は、びっくり大笑い。おもちの二人にまきおこるハプニングの数々。最後によせなべの湯に入ってやっと落ち着き温まる。そのよせなべの湯を見て、子ども達も、「よせなべしたことあるよ。おいしいよ。」などと、にぎやか。

昭和時代からの町の銭湯を思いおこさせる。その様子を楽しくかわいらしく丁寧に描いていてなじみやすい。おもちのおふろが、そのままおもちをおいしく食べるメニューになっている所が作者の工夫である。おなかと心を温めてくれるおふろ絵本である。



11. かかしのじいさん

①

(文) 深山 さくら

(絵) 黒井 健

佼成出版社

かかしのじいさんの仕事は、すずめから米を見守りすずめを追い払うこと。そのすずめとじいさんの対決を通じた交流により、知らず知らずに仲よくなっていく。すずめの来ない日はさみしい。すずめもじいさんのことが気になり会いにくる。そんな温かい交流の中、百姓がすずめをやっつけるためあみをかけることになる。じいさんは、すずめをどうしても助けたいと、でっかく口を開けて全力で助けようとする。その必死な様子がよく分かり、子ども達も、じいさんと共にすずめを助けたいと応援するだろう。

かかしのじいさんとすずめの心の交流を通して、じいさんのすずめを助けたいと思う心を、じいさんの表情から読みとってほしい。



12. 風の子しりとり

①

(文)・(絵) とだ こうしろう

戸田デザイン研究室

かぜの子がとおい空からやってきて、大きなほおの木に「しりとりしよう。」と話しかける。ほおの木は「いいとも。」と答える。かぜの子は「それでは、いきますよ。」と展開していく。

子どもも親もいろいろ思考し、思ったことをそれぞれに口ずさむ。とても楽しめる内容である。

しりとりは、思考力、想像力の原点である。
親子がそれぞれに楽しめる内容ではないだろうか。



13. きょうはそらにまるいつき

①

(文)・(絵) 荒井 良二
偕成社

子ども達の前に本を差し出すと、ぐっと身を乗り出してきた。美しい色彩で描かれた夜の街と空高く輝くまるい月、行き交う人々の様子が目にとび込む。赤ちゃん、男の子、女の子、街の洋服仕立て屋さん、猫、森の動物いっぱい…。みんなの目に映るのは「まるいつき」。人々や動物達のくらしを美しく照らす「まるいつき」そして「ごほうびのような おつきさま」読みすすめていくうちに子ども達の心がほっと温かくなっていったようだ。

満月の光に照らし出された街の人達のくらしとその表情に焦点を当てた絵。その右側には夜に輝くまるい月。「ごほうびのようなおつきさま」。満月の光に温かく包まれる人間や動物達の様子が描かれ、読み終わった時、その温かさが残る絵本である。



14. くもりのちはれ せんたくかあちゃん

①

(文)・(絵) さとう わきこ
福音館書店

洗濯が大の大好きなかあちゃん。くもって雨が降りそうな日も洗濯。雲の上は晴れたからと大だこを上げて、ひもに次々ほしていく。子ども達は、「うそやー。」と言いながらも、話に引きこまれていく。雲の上の雷さん達は、大だこにびっくり。でも、大だこの後から洗濯物がひらひらゆれて昇っていくのを見て、雷さん達もやってみたくなる。空から落ちて、かあちゃんに洗濯してもらい、ほされて空に舞い上がっていく。この後も、子ども達が想像した以上に話が展開していくので、最後まで興味深く話に入り込んでいた。

子ども達が、声に出して家族や友達に読んであげたくなるような絵本である。



15. サラダとまほうのおみせ

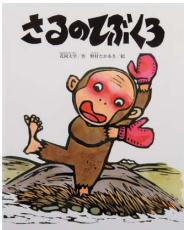
①

(文)・(絵) カズコ・G・ストーン
福音館書店

やなぎ村に、バッタ・かたつむり・くも・ありの家族が住んでいて。そこに「サラダとまほうのおみせ」を開きに来たいもむし。ある日、何日もお休みした後、ちょうちょになって飛んでいった。

一週間程して、ちょうちょから結婚式の招待状が届く。みんなで出かけた。途中で、小さな川のこわれた橋を見て泣くかたつむり。みんなで橋を作った。楽しいパーティーが終わっての帰り道、地図を無くして泣くみんな。今度は、かたつむりのおかげで無事帰ることができた。子ども達は、いつの間にか生き物達といっしょに、ハラハラしたりほっとしたり、楽しみながら聞いていた。

身近にいる小さな生き物達の生きるための様々な個性が、話の展開に合わせて、絵と文章で表現されている。その個性を生かしながら、助け合う姿に好感が持て、穏やかな気持ちになれる。



16. さるのてぶくろ

①

(文) 花岡 大学
(絵) 野村 たかあき
鈴木出版

女の子が木の下で小さな手袋を拾った。持ち主が見つかりやすいように、おじぞうさまの手にはめて預かってもらうことにした。それを見ていたこざるが、この手袋がほしくなり自分の手袋であるとうそをつき、おじぞうさまの手から手袋をはずして山へ持ち帰った。ところが、何度木に登ろうとしてもすべて落ちてしまう。こざるは、おじぞうさまにうそをついたからだと反省し、手袋をもどしに行く。子ども達は、おじぞうさまにうそをついたことを必死であやまる様子に聞き入っていた。

絵は大きく見やすい。登場人物の表情も分かりやすく子どもを引きつける。にこにこしたやさしい顔のおじぞうさまの前であやまるこざるの気持ちを子ども達に十分想像させたい。



17. しまふくろうのみずうみ

①

(文)・(絵) 手島 圭三郎
絵本塾出版

北海道の深い深い山奥にだれも知らない湖があった。けもの達がねぐらに帰る頃から次の夜明けまでの間、かがみのように静まりかえる。この湖に魚をとりやってきたしまふくろうの親子の話である。暗い夜の湖上に大きく羽を広げて魚を捕獲する父親のふくろうは、力強く美しい。幼いふくろうのそばで父親の動きを見守る母親の姿に、温かさが感じられる。

見開き2ページの絵が話のイメージ作りを手助けして子ども達を物語の世界へ、ぐっと引き込んでいった。

簡潔な文章と美しい絵が、子ども達も保護者も話の世界に引き込む不思議な力を持った絵本である。



18. そうきばやしのすもうたいかい

①

(文) 広野 多珂子
(絵) 廣野 研一
福音館書店

そうきばやしに住む昆虫が、次々と登場して、切り株の土俵の上ですもうをとる。カナブンとタマムシ、ダンゴムシとカマキリ、オサムシとカメムシ、トリシジミとオオムラサキ、最後は、昆虫の王様カブトムシとクワガタ。子ども達は、どちらがどんな技をくり出して勝つか、興味津々。予想外の展開になった勝負には、びっくり顔だった。文章は短く簡単だが、昆虫のすもうをとる姿が大きく描かれていて、楽しそうだった。

登場する昆虫は、森や草むらでよく目にし、捕まえたり飼ったりする生き物ばかりである。昆虫の形や色、特徴などもよく分かり、自然の中でくらしている昆虫にやさしい目を向けられる絵本だと思う。また、最後のページの「すもうたいかいは まだまだ つづく」という文章で、他の昆虫への興味付けになればいい。



19. ぞうさんのふしぎなぼうし

①

(文)・(絵) 木曾 秀夫
フレーベル館

大好きな「ぞうさん」の活躍する話に、子ども達は興味津々。ぞうさんが「へんしーん帽子」を投げて、かえる、さる、うさぎと動物達のピンチを救うたびに、子ども達からは「ああよかった」や「うわっ、すごい!」と安堵の声や感嘆の声が聞かれた。ぞうさんが動物達を助けるたびに、子ども達の表情がパッと明るくなり、表情が和らいでくる。子どもの気持ちに添った話といえる。

ぞうさんが帽子を投げて、どんな方法で動物達のピンチを救うのか。子ども達とあれこれ推理しながら読みすすめていくのも楽しい。



20. そらの100かいだてのいえ

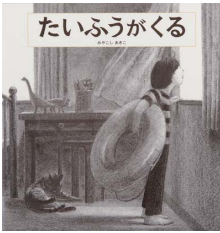
①

(文)・(絵) いわい としお
偕成社

ある寒い雪の日、シジウカラのツピくんは、一粒のひまわりの種を見つけた。お腹をすかせたツピくんは、花を咲かせて種を増やそうと、種を植える場所を探しに空へ飛び立った。

それぞれの階では素敵な住人が迎えてくれる。そらの100階を目指して10階ずつ登っていくのだが、ページをめくるたびに、細かくてかわいい絵が出てくる。次の階はだれが住んでいるのだろうかといったつぶやきもあり、子ども達は絵本に集中し、ワクワクしながら聞いていた。最後の100階にたどり着いた時には、明るい笑顔があった。

生き物や植物と自然環境とのつながりが、ユニークな切り口と親しみやすいタッチで描かれており、どの階も隅々までじっくりと味わいたい。縦に開く絵本「100かいだてのいえ」から始まった大人気シリーズ。



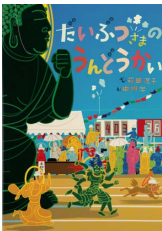
21. たいふうがくる

①

(文)・(絵) みやこし あきこ
BL出版

慌しく準備する両親。ぼくは雨戸のガタガタする音や外の様子が気になって仕方がない。子ども達は台風が来た時のことを思い出し、身体を乗り出して聞き入っていた。台風を追い払う機械を想像するところでは「やったあ!」「頑張れ!」と、共感と応援のつぶやきがあった。最後の青空では「晴れてよかった!」とスッキリした様子でホッと緊張から解放されていた。

海へ行くのを楽しみにしていたところへ台風が来た。少年は台風を追い払う夢を見る。モノクロの絵の中で、最後にただ一色使われた青色が、少年の願望が叶ったことを象徴している。

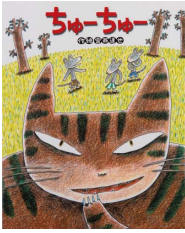


22. たいふうつさまのうんどうかい ①

(文) 荻田 澄子
(絵) 中川 学
アリス館

雲に乗ってたくさんの仏さまが集合した。今日は仏さまの運動会。筋肉もりもりの仁王さま、千本の手がある千手観音さま、にぎやかな七福神もいる。千年ぶりに大張りきりなのは大仏さま。でも体が大きすぎてどの種目もうまくできない…とうとう「もうおてらにかえりたい」とつぶやく。はたして大仏さまは活躍できるのだろうか。運動会前の子ども達に読んだ。いろいろな仏さまや楽しい種目が出てくるたびに「あ、手が多い。」「のどがかわくやん。」とつぶやいていた。最後はほっとしてにこにこしていた。

仏さま達の説明はなくても絵やことばの言い回しで個性がよく分かるようになってきている。失敗ばかりする大仏さまに温かい応援の気持ち湧き起こる愉快的な絵本である。



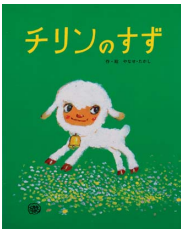
23. ちゅーちゅー

①

(文)・(絵) 宮西 達也
鈴木出版

小学校2年生の国語の教科書に採用された「にゃーご」の姉妹編である。表紙を見せた途端「にゃーごや！」と子ども達のうれしそうな声。表紙をめくり「ちゅーちゅー」と読み始めると、お母さんの膝にいた幼子が飛んで出てきて「ちゅーちゅー！」と言いながら指差した。内容が「にゃーご」の続編ではないので、子ども達は新たな展開に興味津々で聞き入っていた。

木から落ちそうになった子ねずみ達をわが身を呈して助けた猫、真っ逆さまに落ちてしまった猫のために自分達の身の危険をも顧みずに大声で助けを呼んだ子ねずみ達。子ども達はその両者の姿から相手を思いやることの大切さを学び取ることができるであろう。遠く離れながらも最後に両者で交される「ちゅーちゅー」という鳴き声が子ども達の心に余韻を残すように読みたい。



24. チリンのすず

①

(文)・(絵) やなせ たかし
フレール館

平和にくらしていたヤギの親子を、オオカミが襲った。母親だけが殺され残った子どもは親の復しゅうを考える。そこでヤギはオオカミの弟子になって、鍛えてもらうのである。3年たってヤギはとても強くなった。オオカミからヤギの村を襲撃することを知らされた。この時がチャンスとばかりに、逆にヤギは師であるオオカミを倒した。復しゅうは成功したが、ヤギは心から喜べなかった。

なじみのある「アンパンマン」の作者の大型絵本である。迫力ある絵とスピード感ある展開に子ども達はついつい引き込まれていった。

愛と憎しみ・善と悪など対比することはあるけれど、実際はきれいに割り切れるものではない。親の仇を討ったヤギにだって、オオカミとの間に絆や師弟愛が生まれ素直に喜べない気持ちが残る。



25. 手おけのふくろう

①

(文) ひらの のぶあき
(絵) あべ 弘士
福音館書店

毎年、子育てをしている巣のあったサクラの木が倒れてしまい、フクロウ夫婦は大慌て。代わりに見つけた里山の民家ののき下につるされた手おけの中で、3羽のヒナを育て上げる。が、雨風からヒナを守ったり、天敵のハクビシンに襲われたり。最後のヒナが飛び立つ時は、手おけが壊れてしまう。ハラハラする物語の展開に子ども達は心配げな表情。

次の年の春、おじいさんとおばあさんが用意した手おけを見て、やさしい心遣いに、子ども達は温かい空気に包まれた。

しっとりとした色調で描かれた美しい絵が、人情味豊かな物語を一層盛り立てている。老夫婦のさりげないやさしさが心に染み入る物語に、いっしょに聞いていた保護者もほっこり笑顔。



26. どこへいくの? ともだちにあいに! Where Are You Going? To See My Friend!

①・③

(文)・(絵) いわむら かずお エリック・カール
童心社

著名なアメリカと日本の二人の絵本作家が、トークショーで意気投合して二人で1冊の本を作ることに。左からエリック・カールが英語で、右からいわむらかずおが日本語で、二人の絵がまん中の見開きページで出合う。犬、猫、にわとり、やぎ、うさぎ、男の子、女の子と友達がだんだん増えていき、タンバリンとギターで歌と踊りのフィナーレになる。動物の鳴き声が、英語と日本語では違うことに気づかせ、声に出して歌うと子ども達はとても喜んだ。

やわらかな線のいわむらの動物達、力強く印象的な色彩のエリックの動物達。トンボ、蝶、天とう虫、あおむしなどの小さな動物にも、子ども達は目を向ける。「あなたのともだち」は「わたしのともだち」と子ども達にも「ともだち」の輪が広がって行ってほしい。



27. ともだちほしいなおおかみくん ①

(文) さくら ともこ

(絵) いもと ようこ

岩崎書店

友達がほしいおおかみくんが、「遊ぶものよっといで。」と呼びかけると森の動物達が集まってきた。でも姿を見せるとこわがられると思ったおおかみくんは、隠れたまま自分の特徴を一つずつ教える。いくつか聞いて動物達はやっと正体が分かると急に体調が悪いと言い出す。おおかみくんは一生懸命みんなを介抱する。その様子を見て、動物達はやさしいおおかみなんだと分かり仲良く遊ぶという話である。

おおかみくんのやさしさやそれによって動物達の誤解がとけて仲良くなるところに子ども達は共感する。またおおかみくんが伝える特徴を聞いて動物達が、誰なのか予想するやりとりもおもしろい。絵はやわらかいタッチで描かれており、物語と同じように温かみを感じさせる。



28. とんでもない

①・⑤

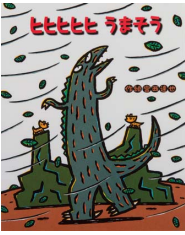
(文)・(絵) 鈴木 のりたけ

アリス館

※絵本カバーの表紙を掲載

ぼくが、カッコいい「さい」をうらやましがることから話は始まる。しかし、意外にも「さい」は、そのカッコいいよろいの為に悩んでおり、うさぎのように身軽に跳べたらとうらやむ。子ども達が思い描いている動物のカッコよさや強さを、動物達は、「とんでもない」と否定。そのために悩んでいる事を打ち明ける動物達の表情が、なんとも人間くさくて親近感が湧く。次の動物はどんな悩みを持っているのか思いをはせながら興味深く聞き入っていた。

題名のかかれていない表紙に興味を引かれ、動物達があちこち見え隠れする不思議な光景に、どんな話が始まるのかと期待がふくらむ。この本は、動物を通して人を思いやるということを自然に教えてくれる。また、隠し絵やまちがい探し等、遊び心の詰まった、最後まで飽きさせない工夫がされている作品である。



29. ヒヒヒヒヒ うまそう

①

(文)・(絵) 宮西 達也
ポプラ社

ふたごのトリケラトプスの赤ちゃんを、「ヒヒヒヒヒ うまそう」とティラノサウルスが食べようとするところから物語が始まる。近くの赤い実が「うまそう」なのだと思った二人は、赤い実をねだって三人で食べる。二人の無垢な心にふれたティラノサウルス。

ある日、火山が噴火し溶岩がおしよせる絶体絶命の危機が三人に迫ってくる。ティラノサウルスは、必死の思いでがけからがけへ横たわり自分が橋になる。二人を渡らせ、「おまえたちがたすかってほんとうによかった」とほっとする。守られ愛された二人は赤い実をとり、来るはずのないティラノサウルスを待つ。

かなしい結末だが、愛するものへのやさしさの大切さを伝える作品に子ども達は言いようのない何かを感じたことだろう。「感動しました」と涙する保護者もいた。



30. ふしぎなともだち

①

(文)・(絵) たじま ゆきひこ
くもん出版

島の小学校に転校してきたゆうすけ。クラスには、いつも教室を出て行く自閉症のやっくんがいた。戸惑うゆうすけ。クラスメイト達は、やっくんをいつも自然体で手助けする。騒いだ時は落ち着くまで待ち、してはいけないことをやさしく教える。やがてゆうすけもやっくんを理解し友達になっていく。おとなになり別々の仕事についても、二人の関係は変わらない。子ども達は、じっくりと話に聞き入っていた。

作者田島征彦は、淡路島の自閉症の青年とクラスメイトへの取材を重ね、4年かけて絵本に仕上げた。絵本の最後でゆうすけが言う「ことばではなしができないのに、心が分かりあえる。やっくんはぼくのふしぎなともだちだ」と。やっくんの母親の思いも描かれ、子どもも保護者もゆうすけや母親に共感し理解を深めていった。



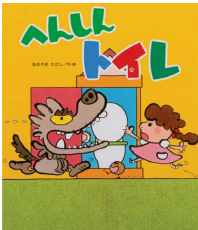
31. ふぶきのとり

①

(文)・(絵) 手島 圭三郎
絵本塾出版

大きくて白いふぶきのとり。吹き荒れる風にむかって雪を降らせながら飛ぶと、静かな森が雪の世界となり、積雪が動物の姿となり、ふぶきのとりと共に歌い踊る。真冬の森に吹雪が起こり、その後鎮まり一面の銀世界となる「一夜の幻想物語」である。子ども達を絵本に集中させる工夫として、多色刷りの版面に注目させ、声のトーンを落とし、ゆっくり読むことに努めた。子ども達は、個人差はあったが、幻想の世界を感じ取り、「ふぶきのとりやふぶきのこども」について想像を膨らませていた。

文章に一層の深みを持たせる版面が、吹雪の夜の光景や森の幻想的な雰囲気醸し出している。子ども達の心に余韻を残すことで、「ふぶきのとりやふぶきのこども」をより豊かに思い描ける絵本である。



32. へんしんトイレ

①

(文)・(絵) あきやま ただし
金の星社

「へんしんトイレ」の題名と表紙の絵から、子ども達はどんな話だろう、なんだかおもしろそうと興味を示し、早く読んでほしいという気持ちになったようだ。

子ども達に親しみのあることばが、トイレに入ると次々違うものにへんしんしていくので、最初はどんなふうへんしんしていくのか聞きいていたが、へんしんの秘密が分かると、今度は友達と顔を見あわせて声を出して言うようになり、発想を広げていった。

このトイレに入り、一つのことばを繰り返しつつやくと、何か違う意味に変化するおもしろいことば遊びができる絵本だ。明るい表情のキャラクターも魅力的。

読む速さを変えたり、読み終わった後、子ども達といっしょにことば探しをしたりするのも楽しそう。



33. ぼとんぼとんはなんのおと

①

(文) 神沢 利子
(絵) 平山 英三
福音館書店

冬ごもりの穴の中、熊の母さんは双子のぼうやを産む。雪深い山の中。穴の中で双子は大きくなっていく。穴の外から聞こえる音、かーん、ほっほー、しーん…何の音かなと熊の子と共に想像する子ども達。きこりの木を切る音、ふくろうの鳴き声、雪の音…と母親はやさしく答える。初冬から真冬、そして、どどーっとなだれの音、春への近づきを熊の子と共に感じとっていく。最後は、春のにおい、春の訪れだ。熊達と共に外に出ていきたくなる。

穴の中に聞こえるかすかな音をもとに対話する親子の姿や育っていく熊の子の様子もほほえましい。一部だけ切り取ったように描かれた絵は美しく温かい。



34. ポレポレやまのぼり

①

(文)・(絵) たしろ ちさと
大日本図書

きょうは、みんなでやまのぼり。先頭ではりきるはりねずみくん、のんびりと鳥の声に耳をすますぞうくん、おおにもつのやぎくんはなにをもっていくの!? 楽しいキャンプのはじまりだ。

登山口で「はやくいこうよー」待ちきれないはりねずみくん。くにで一番高い山、ゆっくりのぼりましようと案内板には書いてある。さるのおじさんに、ポレポレやまのぼりと教えてもらい、ポレポレがゆっくりということだと知る。頂上に到着。やぎくんがみんなにおいしいスープを作る。みんなで踊って楽しい夜がふけていく。

なんて楽しいポレポレやまのぼり。

またこようね、ポレポレやまのぼり。次はどこに行く?



35. まぼろしのゆきのはらえき

①

(文)・(絵) 間瀬 なおかた
ひさかたチャイルド

ある冬のこと、吹雪の中、線路のそばに男の人が倒れていた。そこを通りかかったのはきつね。倒れた男の人を抱き起こそうとするが、重くて起こせない。その時電車の警笛が聞こえ、きつねはとっさに呪文を唱えた。すると小さな駅が現れ、きつねはとっさに駅長になる。やってきた電車はその駅に急停車。男の人は助けられる。電車が去ると呪文で現れた駅は後かたもなく消える。

鉄道大好きな子ども達は、まず表紙の絵に引き付けられる。まっ白な雪景色の中を走ってくる電車の前姿。「まぼろしのゆきのはらえき」で停車する電車。運転手が降りて倒れた男の人を介抱する姿。淡いブルーを主体に彩色された絵は読む者の心をほっとさせる温かみがある。



36. やさいのおしゃべり

①

(文) 泉 なほ
(絵) いもと ようこ
金の星社

冷蔵庫の中の野菜のおしゃべりがとても真実味があっておもしろく、本当に自分の家の冷蔵庫の中でもありそうな話である。子ども達も「そうだ、そうだ。うちでも同じ」と相づちを打ちながら聞いていた。長くほったらかしにされた野菜の悲しい声、使ってもらった野菜の喜びの声。とうとう捨てられてしまう痛々しい姿。野菜達が一喜一憂しながら励まし合う姿が、子ども達の心に響いたようである。

人間と同じように、生命を持った野菜達がせまい冷蔵庫の中で、どんな気持ちでいるのかを考えてみるのには分かりやすく、心を動かされる作品である。この本を読み終わるとすぐ自分の家の冷蔵庫の野菜や食品の様子を見てみようと思うにちがいない。



37. 山のとしよかん

①

(文) 肥田 美代子
(絵) 小泉 るみ子
文研出版

山の中の小さな村に住むおばあさんの不思議な体験の話。ある日、おばあさんが畑仕事から帰ってくると、押入れにしまってあった絵本箱が引き出されていた。久しぶりに絵本を目にしたおばあさんは子育てをしていた頃を思い出し、絵本を読み始めた。ある晩、絵本を読んでいると、男の子がやってきて本を読んでほしいという。読んでやるとそれから毎晩のように男の子が現れる。不思議に思ったおばあさんが男の子の後をついて行くと、なんと男の子はたぬきだったのだ。たぬきと分かってもおばあさんは毎晩やってくる男の子に絵本を読んでやった。

おばあさんが子育て時代に戻って読む絵本。たぬきに戻った男の子が子たぬき達に読み聞かせている姿。絵本を読む楽しさがどこにでもあるという、何かほっとする思いにさせられる。



38. ゆうたくんちのいばりいぬ 1 ゆうたはともだち

①

(文)・(絵) きたやま ようこ
あかね書房

犬が主人公である。飼い犬である「じんぺい」の視点で書かれている。まず「おれ いぬ」と始まり、次に「おまえ にんげん」と続く。題名にもある通りいばり犬のえらそうな表現で物語がすすむ。といっても日常の中で起こるささやかな出来事が書かれているだけである。子ども達は簡潔な絵と文章に引き込まれ、笑顔で見ても、時には声を出して笑う場面もあった。そして最後には「ちがっていななかよし」に大いに納得し、満足した表情が見られた。

小型の絵本で絵も文も簡潔。ゆっくり間をとって読み聞かせていくと子ども達の頭の中に犬の「じんぺい」がすんなり入っていく。そしてまわりの家族とのかかわりなど日常の中にしあわせがある事に気づかせてくれる。ほんわかとした余韻の残る絵本である。シリーズ本なので同時に2、3冊読んでもよい。



39. おにはうち ふくはそと

②

(文) 西本 鶏介

(絵) 村上 豊

ひさかたチャイルド

子ども達は「えっ、題が違ってる」と一瞬驚くが、すぐ奇想天外な話の世界に引き込まれていく。節分の豆も買えない貧乏なお百姓が、豆まきの真似をして「おにはうち ふくはそと」と大声で言ったから、さあ大変。みんなが恐れるあかおに・あおおにが入って来た。おにの大切な虎の皮のふんどしをもらったお百姓は、米ととりかえてもらい、おにといっしょにごちそうを食べ、たくさんのお米のおかげでしあわせになっていくという愉快な話である。

絵は子どもでも描けそうな自由で明るいタッチで、子ども達は快く受け入れる。「おにだって いっけんぐらいは しあわせにできる」というセリフに、子ども達は同感し「そんな節分もいいかな」と明るい気分になってくるだろう。節分の前に読んでやりたいし、読ませたい。



40. じゅうにしのおはなし

②

(文) ゆきの ゆみこ

(絵) くすはら 順子

ひさかたチャイルド

「干支って何かな?」「十二支の順番はどのようにして決まったのかな?」多くの子ども達が一度は疑問に感じたことが一挙に解決する本である。「元旦に、御殿へ早く来たものから順に、十二番めまでをその年の王様にする。」と、神様から告げられた動物達が、自分の特技や特長を生かして頑張る仕草がおもしろく、子ども達も、動物達の行動の一つひとつ反応しながら楽しんで聞いていた。

これに類する本はたくさん出版されているが、本書は、登場する動物の特徴や性格、失敗などが生き生きと描かれており、順番の根拠として無理がない。架空の動物である龍が、神様の遣いとして描かれているのも納得できる。絵もユーモアあふれる画風で、毎年読み聞かせたい絵本である。



41. たべられたやまんば

②

(文) 松谷 みよ子

(絵) 瀬川 康男

フレーベル館

むかしむかし。さみしい山のお寺に和尚とこんぞが住んでいた。ある日、こんぞは山おくへ栗拾いに出かけ、一人のばあさまに「栗をいっぱい煮ておくから遊びにこいよ」と誘われた。喜んだこんぞはばあさまの家で栗を腹いっぱい食ってごろりと寝てしまった。

目をさまし、隣の部屋をのぞくとやまんばがおはぐろをぬっているのでびっくり。「おら、しょんべんしてえ」と言って帯でくくられたまま便所に逃げ出した。さて、こんぞと和尚の命はどうなるか。

表紙をめくると次々と飛び出してくる絵にも目が奪われる。表紙を含めて40ページにわたってカラフルな絵が描かれている。よく見るとかなり細部まで詳しく描かれており、文章の理解にも大変役立つ。



42. ほうまんの池のカッパ

②

(文) 椋 鳩十

(絵) 赤羽 末吉

B L 出版

主人公とらまつは、雄牛をねじふせるほどの力もち。「おれが、島一番の力もちじゃ。」と、大いぱり。ところがある日、ほうまん池に現れた不思議な生きものに出会う。土からぬくりんぬくりんと、おかしな手がたくさん出てきた。たまげていると、その手がつ、つ、つ、と魚をみんなつかんで消えうせた。とらまつは「これはまあ、どうしたことかい。」と驚いた。ほうまん池にはなにやら変な生きものがいるらしい。話の展開がおもしろく、次々に起こる奇妙な出来事にとらまつはどうなるだろうと、子ども達は興味津々に聞き入る。

赤羽末吉の動きのある絵は、ドキッとしたり、えっ何だろう？とふしぎに思ったり、話の中に入り込んでいく手がかりとなっていた。また本当の『ちから』ってなんだろうと、心に残る。



43. やまなしもち

②

(文) 平野 直 (再話)
(絵) 太田 大八
福音館書店

「やまなしがたべたい」という病気の母のためにやまなしもちに三人の兄弟が次々と奥山に行くが二人の兄は沼の主に飲みこまれてしまう。最後に一番下の弟が出かけた。途中で会った老婆や笹などの言う通りにしたのでやまなしをとれたが沼の主に見つかる。しかし老婆にもらった剣で主をやっつけ兄達を救ったという話である。東北の方言や「ゆけっちゃかさかさ」のようなリズム感ある読み方をすると子ども達もついまねしたり、同じような場面をくり返すので、「そっちの道いったらあかん」と小声でつぶやいたりしていた。

この話は岩手の民話で作者の民話採集のきっかけとなったそうである。三人めがしあわせになる話はよくあるが、これは三人が力を合わせてやまなしをもち帰り母に食べさせて、四人仲よく暮らしたという心温まる再話になっている。



44. あかいはねのふくろう

③

(文)・(絵) フェリドゥン・オラル
(訳) 広松 由希子
復刊ドットコム

空を飛ぶたいふくろうの子とも友達になったねずみが、ふくろうが飛べるように次々と考え実行する話である。ふくろうに羽が赤くなると飛べるようになるという聞いたねずみは、赤いけしの花、りんごの皮、ねこの遊び道具の赤い毛糸と、赤い物を見つけてきては、ふくろうの羽につけてやる。どれも失敗するが、子ども達はふくろうがいつ飛べるようになるのかドキドキしながら聞いていた。羽が赤くなって飛べるようになったふくろうは、ねずみの近くに住んで友情は続く。

赤い色が各ページに印象的に描かれている。「絵本は言語を超えて分かりあえるもの。文化は世界中のすべての子ども達に共有されるもの」というトルコの作者の考えが伝わってくる絵本である。



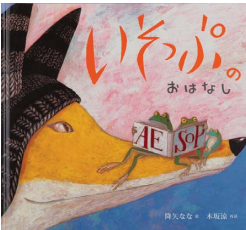
45. あかねこくん

③

(文)・(絵) エリック・パテュ
(訳) もき かずこ
フレーベル館

「あかねこくん」と呼ばれる赤い猫がいた。ある春の日、散歩中に見つけた卵を抱いてひなをかえした後、小鳥を太らせてから食べようとせっせと育てているうちに友達になった。秋、小鳥は南の国へ旅立つが、次の春約束通り帰って来た。新しい家族まで連れて。赤猫には、また楽しい毎日が始まったのだ。

食いしん坊の赤猫、欲張りの赤猫、そのためではあるけれどせっせと世話もする赤猫。でも食べるより友達になって遊ぶ方が何倍も楽しく暮らせることに気付いた赤猫。旅立った小鳥の帰りをひたすら待ち続ける赤猫の心情や、小鳥が忘れず帰って来てくれたことの嬉しさなど、すべて子ども達の共感が得られる内容である。また、文章が簡潔で、文字も明瞭で読みやすい。単純化された赤猫の姿、しぐさ、目や口の表現も素晴らしい。



46. いそっぷのおはなし

③

(文) 木坂 涼 (再話)
(絵) 降矢 なな
グランママ社

「きつねとつる」「うさぎとかめ」「よくばりないぬ」「うしとかえる」「ひつじかいとおおかみ」「きこりとおの」「からすときつね」「ありときりぎりす」「きたかぜとたいよう」全9話が載っている。

子ども達は「あっ、その話知ってる！」と言いながらも楽しそうにしっかり聞いていた。

絵もはっきりと分かりやすく、ていねいに描かれている。

イソップの話は「教え」が入っているのも今の子ども達には良いと思われる。保護者もイソップの話のことを懐かしく思い出しているようだった。



47. おうさまのくつ

(文) ヘレン・ビル

(絵) ルイス・スロボドキン

(訳) こみや ゆう

瑞雲舎

タイトルと、表紙のちょっときどった表情の絵から、ピカピカのとても豪華な靴を、子ども達は想像していた。

靴屋の主人がたん精こめて作った靴がウィンドウに飾られると、人々がロク々に「すばらしい!! 王さまのはく靴みたいだ!!」と誉めそやす。すっかりその気になってしまった靴達は、主人の留守にさあお城へと出発。ところが、あと少しのところまで雨に降られ、たちまち泥だらけになる。とにかくお城の中で乾かそうと中に入っていたのだが、さあ、靴達の結末は？

スロボドキンの絵がほのぼのとしていて楽しく、靴の表情がかわいらしくて思わず笑ってしまったり、この後どうなるのかとドキドキしたり。長い話だが、スピード感もあり、子ども達を飽きさせずに最後まで、引っ張っていく。



48. きつねくんのもりのおともだち③

(文) ティモシー・ナップマン

(絵) レベッカ・ハリー

(訳) 木原 悦子

世界文化社

もりのなかまたちは、ふゆじたくにおおいそがし。でも、きつねのハリーくんはあそんでばかり。とうとうもりにゆきがふった。ハリーくんはひとりぼっち。

そのとき、そらからぎんいろのはこがおちてくる。ハリーくんは、いいことをおもいつく。

友達のやさしさ、大切さに気づくことのできる話だ。

ハリーくんがひとりぼっちになったのは、うさぎ、ふくろう、リスのいうことを聞かなかったから。でも、プレゼントをあげてみんなと仲よしになれてよかった。はじめはこれくらいの受けとめしかできないが、じっくり読むと、また違った受けとめ方ができるのではないかな。

寒い時期に適した本である。



49. きつねのホイティ

③

(文)・(絵) シビル・ウェッタシンハ

(訳) まつおか きょうこ

福音館書店

小さな村に住む三人のなかのよいおかみさん達と、村はずれの森のくいしんぼうぎつねのホイティとの明るくユーモラスなやりとりを描いている。

花嫁衣裳を描いた色鮮やかな表紙に始まり、動きのある絵、リズム感のある文章に子ども達は引き込まれていた。

絵に風景や生活・結婚式の料理・風習がちりばめられ、スリランカの日常がしぜんに感じられる。

また、ごちそうを食いたい一心で人間になりすまして何度もやってくるホイティと、それを知っていながらだまされたふりを続けるおかみさん達の機知に富んだやさしさが愉快地繰り広げられ、温かくほのぼのとした気持ちになるのではないかと思う。



50. こいぬのうんち

③

(文) クォン・ジョンセン

(絵) チョン・スンガク

(訳) ピョン・キジャ

平凡社

子犬がうんちをしたところから始まる。最初は「うんち、うんち」「いぬくそ」と、馬鹿にされ、悲しみにくっていた犬のうんちが、土くれやタンポポと出会い、次第におだやかな心になっていく話である。

聞き手の子ども達は、はじめは「うんち、うんち」と笑っていたが、だんだん子犬のうんちの悲しみに同化し、最後は「よかったね」とほっこりした気分になった。

この絵本を通して、身の回りで役に立たないものはないということに気づかされる。絵も写実的で、話に引き込まれ、繰り返し読みたくなる絵本である。



51. コッケモーモー！

③

(文) ジュリエット・ダラス＝コンテ

(絵) アリソン・バートレット

(訳) たなか あきこ

徳間書店

どうしよう！ 鳴きかた忘れちゃった！ いくら頑張っても「コッケコッコー！」を思い出せないおんどり。「コッケモーモー」「コッケガーガー」「コッケプープー」「コッケメーメー」と目の前の動物の鳴き方になってしまう。みんなにバカにされたり笑われたりのおんどり。ある夜、怪しい物音がしてきつねが！ 気がついたおんどりはみんなに笑われていた鳴き方できつねを追っばらい、みんなにほめられる。おんどりはうれしくてうれしくて「コッケコッコー！」と鳴き大喜び。自分の鳴き方を思い出せたのだった。

登場してくる動物達が親しみやすく明るい色彩で描かれている。大きく太い字で「コッケ…！」とおんどりの鳴き声が重なり、読み手も大きな声で鳴き声を読むと子ども達もいっしょに「コッケコッコー」と大きな声で読む。楽しい話だ。



52. しずかなしずかな クリスマス・イヴのひみつ

③

(文) クレメント・クラーク・ムーア

(絵) アンジェラ・バレット

(訳) 石井 睦美

BL出版

クリスマス・イヴ、家中が静まりかえっている中、サンタクロースが現れる。絵がとても繊細で美しく、子ども達は、まず、絵の美しさにひきこまれる。そして、本当にやってきたサンタクロースのリアル感に驚く。特に目立ったストーリーはないが終わったあとは、やっぱりサンタさんはいるんだ、といううれしそうな表情がうかがえた。

全体を通して流れるしずかなしずかな夜の時間。部屋の中にあるいろいろな物が、サンタクロースを見つけてほほえんでいる様子を感じてほしい。語り口調もしずかでやさしい。きっと今まで以上にワクワクドキドキして、イヴをむかえることだろう。何度見てもあきることのない絵本である。



53. シナの五にんきょうだい ③

(文) クレール・H・ピシヨップ
(絵) クルト・ヴィーゼ
(訳) かわもと さぶろう
瑞雲舎

シナの五人兄弟は、そっくりな顔で、それぞれが得意技を持っている。最初は、罪を犯したと誤解され、次々と刑罰を受けるが、その度に得意技を發揮して無罪となり、最後は、お母さんといつまでもしあわせに暮らした。

単純な色彩で構成されているが、飽きのこない絵である。特に、長足の兄が、海の底まで脚を伸ばしても平気な顔のたて長の構図は、意表を突く。このページになると、子ども達は驚きの声をあげる。



54. 10ほんのぷりぷりソーセージ ③

(文) ミシェル・ロビンソン
(絵) トール・フリーマン
(訳) もとした いづみ
ほるぷ出版

子ども達の大好きなソーセージ、いつも何気なく喜んで食べている。フライパンの上のにせられじりじりじり、ポン！とはじけたら…。さてさて10本のぷりぷりソーセージの運命、1本ずつその様子や気持ちを追いながら、子ども達は「熱くてかわいそうやな、大事に食べんとあかな。」とつぶやく。ユーモアのある絵本だがちょっとびりこわさも感じられる表現で、食材の命をいただくことを感じさせた。

飽食時代に生きる子ども達が、改めて食べ物の気持ちを知ることによって、粗末な食べ方をせず大事に食べてくれるよう願っている。読み終わった後、実際にソーセージを焼き食べてみた。親達がびっくりするくらい「やっぱりおいしいなあ〜。」と味わって食べていた。体得する中でより自分の中で「粗末にしないで食べる」が伝わった。



55. すえっこおおかみ

③

(文) ラリ・デー・ブリーマー

(絵) ホセ・アルエゴとアリアンヌ・デュイー

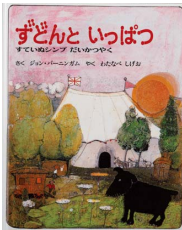
(訳) まさき るりこ

あすなる書房

すえっこおおかみは姉さんや兄さんのように風のように走ったり、高くとびあがったりはできない。自信のないすえっこは大きな木の幹にかくれて姉や兄が遊ぶのを見ていた。とうさんおおかみは、すえっこの様子に気づくと、「どれ、いっぺんやってみせてごらん。」と言う。すえっこの動作を見たとうさんは、「今はそれでいい。」「できるようになるのは大きくなってからだ。」と答えてやる。

父親のことばに安心したのか、すえっこは何度でも走ったりとび上がったりにして挑戦する。子ども達にも、できなくてくやしい思いをした経験があるのだろう。すえっこおおかみに共感しながら聞き入っている様子であった。

温かく大らかに子育てをする父親おおかみの姿を、おとなにも味わってほしい。



56. ずどんと いっぱつ すていぬシンプ だいかつやく

③

(文)・(絵) ジョン・パーニンガム

(訳) わたなべ しげお

童話館出版

シンプは、ちっぽけでふとっちょで、もらい手がみつからずに、ゴミ捨て場のそばに捨てられた黒犬。そのシンプが、ねずみや猫、野犬狩りの危機を乗り越えて逃げ切り、サーカスにもぐり込む。ピエロのおじさんに受け入れてもらう中で、おじさんの悩みを知り、身体を張った活躍をして、一躍スターになり、安住の居場所を得る。静かな画風の中、シンプの表情が純朴で楽しい。

子ども達は、みじめなシンプによりそい、パッと行動するシンプに拍手を送る。予想外の行動力と機知、おじさんへの思いややさしさに、聞き手は抱きしめたくなるだろう。

目立たない存在でも、内面に相手を思いやるやさしさと潔さ、知恵と明るさ強さがあれば大丈夫という保護者の声があった。



57. ゼラルダと人喰い鬼

③

(文)・(絵) トミー・ウンゲラー

(訳) たむら りゅういち・あそう くみ
評論社

料理の好きな女の子ゼラルダは、市の立つ日に父親の代わりに一人で遠くの森から荷車で町にやって来た。子どもを食べるのが大好きな人喰い鬼に狙われたとも知らず、親切に鬼を介抱し料理を作って食べさせる。そのあまりのおいしさに鬼は、自分の城に女の子を招き入れ毎日ご馳走を作ってもらおう。やがて、その料理のおいしさに子どもを食べることなどすっかり忘れてしまった鬼と美しい女性に成長したゼラルダは、結婚しあわせに暮したという話には、子どもも納得した様子であった。

女の子の作るおいしそうな料理が並ぶ絵や、自分を食べようとしていることなど全く疑わず、一生懸命に料理を作る女の子の行動に引き込まれて話を楽しんでいくうちに、鬼の恐ろしそうな形相に固まっていた子ども達の表情が和む。



58. ちいさいきみとおおきいぼく

③

(文) ナディーヌ・ブラン・コム

(絵) オリヴィエ・タレック

(訳) 磯 みゆき
ポプラ社

ずっと一人だった大きいオオカミのところに、ある日小さいオオカミがやってくる。『大きいぼく』は、初対面の時見て見ぬふりをしたり「ぼくより何でも出来たらどうしよう。」と心配するが「なあんだ、ぼくよりうんとへたっぴだ。」と『小さいきみ』にちょっとした優越感を抱いたり、いなくなったさみしさに眠れなくなったり…どの子も何度か味わったことのある思いなのだろう。乗り出して本を見つめていた。「しんぱいしてたんだよ」「ぼくだってしんぱいした」再会した二人の会話に子ども達の雰囲気が一度にやわらいだ。

入学間もない不安な1年生、組替えで心細い子、けんかをひきずっている子、友達がほしい子、つい怒ってしまって反省しているおとななどは是非読んでほしい。



59. チトくんにぎやかないちば③

(文) アティヌーケ

(絵) アンジェラ・ブルックスバンク

(訳) さくま ゆみこ

徳間書店

西アフリカの、にぎやかで明るい市場を舞台にした絵本である。お母さんにおんぶされて市場へやって来たチトはきよろきよろ。やさしい市場の人達から次々に果物をもらい、一つ食べては残りをかごの中へばいっ。かごの中は果物でいっぱい。チトはにっこり。お母さんはびっくり。リズムのある表現に子ども達は、次の展開を予想しながら聞いている。お母さんや、市場の人達のやさしさに包まれて、すやすや眠っているチトに、読み終わった時、ふっと笑顔になった子ども達の顔が心に残る。

作家、画家ともに西アフリカ生まれ、西アフリカ育ち。大好きな市場の風景を色彩豊かに描いている。知っている外国の名前を得意気に話す子ども達に、この本を通して他の国の人々のくらし、(本書では店・服装・乗り物)や人間性にふれることができる作品だ。



60. どろんこごぶた

③

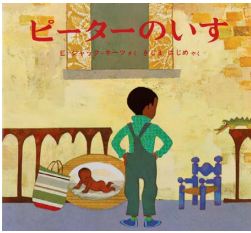
(文)・(絵) アーノルド・ローベル

(訳) 岸田 衞子

文化出版局

お百姓さんの夫婦がごぶたをかつている。このごぶたが何よりも好きなことはやわらかいどろんこの中にすわって沈んでいくこと。ある朝おばさんが大そうじをして、どろんこがなくなってしまった。怒ったごぶたは、どろんこをみつけるため家を出ていく。町でやっとみつけたどろんこがセメントで、セメントづけになってしまう。子ども達もハラハラドキドキ。最後は救助されハッピーエンド。

絵の色づかいが、青黄緑の三色で統一されて、人物の表情や動きが細やかで描写が美しい。おとなの都合で子どもの気持ちを考えないでやってしまうことがある。子どもによりそって行動することが大切であると感じさせてくれる話である。また、絵を見るだけで話の展開が分かりやすく、ユーモアや笑いもあって、子どもに感動や夢を与えてくれる楽しい絵本である。



61. ピーターのいす

③

(文)・(絵) エズラ=ジャック=キーツ
(訳) 木島 始
偕成社

ピーターは、今まで一人天下だったのに、下の子が生まれ、家族の目が下の子に移ってしまった。お兄ちゃんになったうれしさの反面自分の存在が薄れていく不安感を抱き、その解決法を自分なりにみつめていく。心温まる人間愛にあふれ、子どもの心の内面が美しく感銘深く描かれている作品である。

弟や妹が生まれるとだれもが通る道。やきもちをやいて、いたずらをしたりお世話をしたり等。子どもなりの葛藤場面がある。ピーターの大切ないすも、大きくなった自分がすわってみて、初めてすわれない事に気づき、下の子に譲ろうという気持ちになった。子どもの気持ちの動きにそったリズム感がある。子ども達は、自分の体験と比べ、話に引き込まれていく。絵は渋い色彩で、子どもの心を表現しているかのようである。



62. ひとりぼっちのかえる

③

(作) 興 安
(文) 三木 卓
こぐま社

ひとりぼっちのかえるは、お日さまや雨、地面のおじさん、風や月からさびしくないかと声をかけられる。かえるはその度に、あなた方から恵みを受けているのでさびしくないと答え、相手を喜ばせる。お天気を喜ぶことはあっても、雨や地面などに感謝するなど思いもつかない子ども達であろう。鮮やかで美しく力強い絵に引き込まれるようにじっと聞き入っている。

一つの星がかえるのことにばに元気をもらい力強く輝き出すと空いっぱい星が輝き、かえるの歌も野山に広がり仲間の歌といっしょに元気に歌い続ける。子ども達もしあわせな気持ちになるであろう。

現代の子どもは人間関係を気にしすぎると言われるが、自然の美しさを感じ、それに慰められ、励まされる心の豊かさを身につけたい。自然体験とともにこのような本による意識づけも大切な。



63. ほんとうはなかよし ～エルモアとアルバート～

③

(文)・(絵) ローレン・チャイルド
(訳) 明橋 大二
1万年堂出版

「きょうだい」の素晴らしさを、ポップでカラフルなイラストと共に届ける心温まる話である。一人っ子のエルモアは、何でも一人じめる。部屋もテレビもおもちゃも、パパとママさえも…。ところがある日、エルモアの家にちっちゃい子がやってくる。その子は、エルモアの世界に勝手に入り込み、エルモアの生活をめちゃくちゃにしていく。どんどん変わっていく場面に、聞いている子ども達は、はらはらときどきする。

環境が変わるとまどうのは誰にもあること。幼い子にとっては、今まで自分の意のままになっていたすべてがうまうまなくなると、みじめな気持ちになり、わがままも出てくる。しかし、兄弟や友達の存在を認め、それぞれの素晴らしさに気づくと、世界が広がっていくことを教えてくれる。



64. まめつぶこぞうパトゥフェ

③

(文) 宇野 和美
(絵) ささめや ゆき
BL出版

豆つぶほどしかない小さなパトゥフェは、なんでもやりたがり、どこにでも行きたがる男の子。ある日畑のお父さんにおべんとうを届けに行く途中雨が降ってきて隠れたキャベツの葉といっしょに牛にのみ込まれてしまう。さてそのあとは…。ゆかいな結末に子ども達は大笑い。

スペインカタルーニャ地方の昔話。絵本に出てくるパトゥフェの歌は、童謡として親しまれ、おとなになっても多くの人が歌えるそうだ。

小さな愛すべきパトゥフェの活躍ぶりは、とてもユーモアがあり、何度読んでも楽しく子ども達の心をとりにすると思う。絵も楽しい。



65. ゆかいなかえる

③

(文)・(絵) ジュリエット・ケペシュ
(訳) いしい ももこ
福音館書店

表紙の4ひきのかえるが、子ども達にいっしょに遊ぼう!!と話しかけてくるようだ。子ども達の心や目が絵本に集中してくる。たくさん生まれたゼリー状のたまごのうち、4つが無事だった。黒い点々が大きくなり、しっぽができ、足が生え、やがてしっぽがちんで4ひきのかえるになった。もぐったり、およいだり。子ども達は、かえるといっしょにいたずらしたり、遊んだりするだろう。

作者が「生きもの達の動くフォームが何よりの絵の教師だ」と言っているように、鮮やかな緑と青と黒と白の4色で描かれる。のびのびとした動きが楽しい絵本である。



66. わたしをわすれないで

③

(文) ナンシー・ヴァン・ラーン
(絵) ステファニー・グラエギン
(訳) 角野 栄子
マイクロマガジン社

物語は、おばあちゃんが病気でだんだんと変わっていく様子を、孫である「わたし」の視点で描いている。大好きなおばあちゃんが認知症になって、いろいろなことを忘れていってしまうという悲しい話だが、悲惨ではない。わたしの名前を忘れた時、まちがいゲームをしているふりをして、「ブー、はずれです。わたしジュリアよ」という彼女の思いに共感してほしい。

この本は、表紙も中表紙もおばあちゃんの大好きなわすれな草でいっぱい。 「わすれなぐさがさきはじめたら、はなをいっぱいいっぱいつんで、おはなばたけをつくってあげよう。…わらっててをたたいてよこんでくれるわ。」と希望をもって終わっている。子ども達も、自分なら、おばあちゃんにどんなことをして喜ばせてあげようかなと考えてくれることだろう。



67. あしのうらのはなし

④

(文)・(絵) やぎゅう げんいちろう
福音館書店

表紙いっぱい描かれた左右の足型。白地に橙色、黒の線、青色の題字、とてもインパクトがあり、すぐさま自分の足に直結する。絵が単純明快ユーモラスで、子どもは自分の生活経験と思い合わせて納得している様子。そして今まで気づいていなかったことを新しく発見し、笑いと共に「足のうら」への知識を深めていく。

この本は、はだしになって読むのが最もよい。赤ちゃんからずっと使い続けてきた足のうら。そして大きなおとなの足のうらとの比較もおもしろい。足のうらは、人間が生きていく上でどんな重要な働きをしているか、その機能についても説得力をもって書かれている。走っているときの足のうらの着地の様子もコマ送りのように分かりやすく描かれている。自分の身体の一部である大切な足。その「うら」への興味関心、ひいては愛着心をも期待できる本だ。



68. いっしょだよ

④

(文)・(写真) 小寺 卓矢
アリス館

美しい写真絵本。広い森の中の木々やきのこ、小さな生き物達。それぞれが、つながって生きているということを見せている。

1ページ1ページの写真が美しく引き込まれてしまう。

小さな木の芽ぶきから始めて、少しずつ視界を広げていくので、生き物達の間がりがよく理解できるだろう。そして自分達もいつも何かといっしょにつながりながら生きているんだという事に気づかされる。

69. いのちのたべもの



(文) 中川 ひろたか
 (絵) 加藤 休ミ
 おむすび舎

お母さんとスーパーに行ったぼくは、寄せ鍋の材料を見つけるように頼まれた。どこの売り場にあるのか。お母さんは、材料を海の物と陸の物に分けるように言った。鍋の材料は、みんな命のある物。その命をいただくことで人は生きている。ごほうびのスナック菓子は、命じゃない物が一杯入っている。子ども達は、考えながら聞き入っていた。お父さんが、「地球の海と陸は、命を生み出す。地球は、命の星だ。」と言った。いろいろな食べ物星の宇宙のページでは、子ども達は、ぐっと引きつけられ口々に「魚星」「人参星」等とつぶやいていた。

「いのちさん、ありがとう。カンパニー」とみんなで言いたくなる。食べることは、命をいただくこと。体は、食べ物でできている。大切な「食」を伝える食育絵本である。



70. うまれたよ! モンシロチョウ④

(文) 小杉 みのり
 (写真) 安田 守
 岩崎書店

モンシロチョウは子ども達にとってはとてもなじみのある親しい存在であろう。チョウといえばモンシロチョウを指すといっても過言ではないだろう。しかし小さな卵、脱皮、サナギなどの生態はよく知らないので子ども達は興味津々で見ていた。美しく鮮明な写真。卵から幼虫が出てくる場面の写真には素直な驚きを感じる事が出来た。また毎日のふんを並べている所では喜んで見ていた。

生まれてからチョウになるまでが美しい写真で構成されている。目で楽しめるだけでなく「1れいようちゅう」という専門用語も入っており、生物学的知識も満たされる。

入門書だが子ども達がかっと知りたいとか、もっと調べたいと思っうきっかけになる本である。



71. おいもができた

④

(監修) 馬場 隆

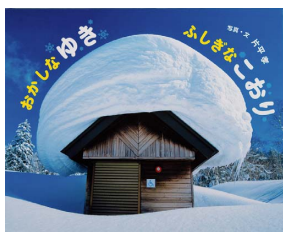
(写真) 榎本 功ほか

ひさかたチャイルド

種いもから食用のサツマイモができるまでを紹介している。1ページめの大きなサツマイモが食用ではなく、土に植えて育てるためのイモであることを告げると、子ども達からは「エーッ」という声が上がった。そして、このサツマイモがどうなっていくのかも1ページ1ページ、目を輝かせて見ていた。

土に埋められたサツマイモが春から秋にかけてどのように生長していくか、農家の取材を元に進めていること写真を多く取り入れることで分かりやすく子どもの興味を引く。

サツマイモの栽培・収穫は、学校でもよく見かける。秋のサツマイモの収穫期に読みたい。そして、そこには農家の人達の努力があること、また、サツマイモも芽を出し根をどんどん大きくしていつていること「頑張っていること」を知らせたい。



72. おかしなゆき ふしぎなこおり ④

(文)・(写真) 片平 孝

ポブラ社

雪がたくさん降ってほしい、雪の中で遊びたいと思っている子ども達には、インパクトの強い表紙の写真。こんなにも雪の世界は表情豊かなのか、こんなにも楽しい世界なのかと驚かせてくれる。

宝石を思わせる雪の結晶。ひよっとしたら温かいのかもと思ってしまいそうな、ふんわりしたマフラーや帽子に見える欄干の雪。枯木をモンスターに変身させてしまう雪。思わず「冷たい！」と言ってしまいそうなつらに、子ども達は目を輝かせていた。

温暖化で、身を切るような寒さの日々が少ないのは嬉しいけれど、自然の様々な表情(厳しさ・やさしさ・温かさ…)が少しずつ見られなくなっていくのはさみしい。

遠出をしなければ、雪の素晴らしさを味わえなくなった地域の子子ども達に、自然の豊かさを味わわせてくれる絵本である。



73. おしりポケット ウォンバットの赤ちゃん

④

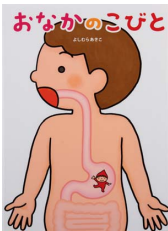
(文) ゆうき えつこ
(写真) 福田 幸広
そうえん社

まず表紙をゆっくり子ども達に見せる。ウォンバットの赤ちゃんが、お母さんの子育て袋の中から顔を出しているのを見た子ども達は、「えーっ。お母さんのお尻から顔を出しているの?」「かわいいなあ。どうなっているのこの赤ちゃん。」と興味津々。

読みすすめていくうちに、ウォンバットの赤ちゃんが母親に助けられながら成長していく様子が分かってウォンバットが身近になったようである。

子ども達は、カンガルーのことはなじみがあっても同じオーストラリアに生息するウォンバットのことは、未知の様子であった。

同じ地に生きるこの生き物の成長を簡単で分かりやすい文章とそれを手助けする写真を見ることで、子ども達は最後まで興味を持って聞き入る写真絵本である。



74. おなかのこびと

④

(文)・(絵) よしむら あきこ
教育画劇

この絵本は「自分のおなかにいるこびと」を通して、体に良い食事の仕方を教えている。カラフルで単純、明快、キャラクター化された絵に、かわいいこびとの活躍で楽しく興味深く読むことができる。子ども達は、自分のおなかに手をあてたり、のぞきこんだりしながら絵本の中に入り込んでいく。1ページ毎に、つぶやきながら反応した。「こびとさん、怒るかな」と食べ物に関心を持つようになった。また「こびとさん、困らせないようによくかもうっと」と絵本の世界から、消化・吸収のしくみにまで発想する子も出てきた。

偏食の矯正、食べ物、食事の仕方を考えさせることができ、食育にぴったりである。幼児から小学校低学年、さらに中学年にまで年齢に応じて楽しめる絵本である。



75. かさぶたくん

④

(文)・(絵) やぎゅう げんいちろう
福音館書店

「かさぶたって、何でできているの?」「かさぶたの下は、どうなっているの?」子ども達の知りたいことが詳しく描かれた科学絵本である。「かさぶたとりたいな。とっちゃだめ?」ユーモラスな絵の横には、経験したことのある子ども達の思いが台詞になって描かれている。複雑な内容も分かりやすい説明で子ども達の興味を引きつけ飽きさせない。子ども達は見入っていた。

かさぶたの下では、新しい皮膚がどんどん作られている。子ども達にとって身近な「かさぶた」で、身体の仕組みや不思議を知るきっかけになる絵本である。おとなもいっしょに楽しめ、日常生活でも「かさぶた」のことが話題になることだろう。



76. くだもの

④

(文)・(絵) 平山 和子
福音館書店

子ども達は、おいしい食べ物がでてくる本が大好きだ。まず、さくらんぼの表紙の絵が目をはひく。さくらんぼを食べたことを思い出し自然にことばが出てくる。どのくだものもみずみずしくておいしそう。みんなにこにこしながら聞いてくれた。「デザートどうぞ」とさしだすと思わず手をのばして食べるまねをした。

香りたつフレッシュな果物、大好きな人から手渡される果物にはしあわせがつまっている。絵も文も同一作者なのでぴったり合っている。子ども一人ひとりの反応と表情を楽しみながらゆっくり読みすすめたい。



77. じめんのしたの小さなむし

④

(文)・(絵) たしろ ちさと
福音館書店

落ち葉の積もった地面の下で、小さな命が生まれた。

秋のある日、小さな虫は少年に掘り上げられてしまう。子ども達は、「えっどうなるの。」と声をあげて心配そう。少年が家に持って帰り、植木鉢のおうちに入れて、大きくなれと葉っぱを置いた。子ども達は「自分もそうするよ」と言った表情。小さな虫は、おいしい土を求めてどんどん進み、仲間を見つれたり、アリと闘ったり。子ども達は次はどうなるのかな、と小さな虫といっしょの気持ちになっていく。

地面の下で生まれた小さな命が、おいしい土を求めて、いろいろな体験をしながらたくましく生き抜き、りっぱな成虫になる。子ども達がこれからの人生でめぐりあうであろう困難を乗り越えて成長していく姿と重なり、命の神秘さ尊さも養う1冊である。



78. たまごのはなし

④

かしこくておしゃれてふしぎなちいさいのち

(文) ダイアナ・アストン
(絵) シルビア・ロング
(訳) 千葉 茂樹
ほるぷ出版

見開き表紙に描かれているいろいろなたまご。形、大きさ、色、模様等が異なるたまごの絵に子ども達の目が光る。

標題の下に書かれた副題「かしこくて、おしゃれてふしぎな、ちいさいのち」を読むと「何？」という顔つきに。ページごとにたまごの形、色、大きさ、模様、手ざわり等の視点から白地にくっきりと描かれている。子ども達の顔が驚きに変わり、保護者も興味深そう。そしてたまごは、いのちをはぐくみ、おとなしかったたまごがにぎやかに。雛の誕生だ。子ども達から「わあ、よかったね！」と喜びの声が出た。

表紙の内側にもさまざまな卵と生き物が描かれていて、子ども達の興味は尽きない。「小さな小さな虫の卵」から「大きくて重い鳥の卵」までが紹介されていて、親子で楽しめる科学絵本である。



79. ダングムシ

④

(文)・(写真) 今森 光彦
アリス館

子ども達にとって、身近な親しみのあるダングムシの観察記録である。写真が主体であり、何より作者自身が家で飼って写真を撮っているため、出産や脱皮など興味深く魅力的な作品になっている。子ども達は表紙を見て、「あっ知ってる」と興味を持ち、さらに読みすすめると、「ええーっ」から「へえー」と知らなかったことを知ることになり、一つひとつの写真を食い入るように見ていく。「ダングムシ、飼ってみよう」という声も聞こえた。

遊びの対象であるダングムシの生態を、写真で具体的に紹介することで、より自然への関心を高め、科学的な視点への足がかりともなっている。文章部分が長いので、説明を入れると時間がかかるが、親子で、新しい知識や芸術的な写真に感動し、最後まで飽きずに見ていける。読後も親子で話ができるのもこの本のいいところだ。

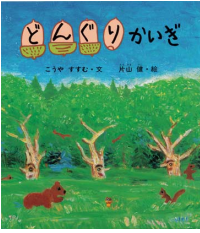


80. たんぼのカエルのだいへんしん ④

(文)・(写真) 内山 リゅう
ポプラ社

カエルの卵からオタマジャクシ、カエルになるまでを写真でとらえ観察できる本である。子ども達にとってカエルはとても身近な生き物であり、こわがる子もいるが手に乗せたりオタマジャクシを網ですくったりして遊んだ子どももいるだろう。鮮明な写真で「へんしん」していく様子を前のめりになって見ていた。特に鳴く時のどをふくらませる様子に笑い声も起こった。

昔、田んぼはどこにでもあり、またカエルも今よりもっと身近な存在であった。現在田んぼと共にカエルを見ることも少なくなった気がする。しかし子ども達にとってオタマジャクシ、カエルは絵本や漫画にもよく出てくる生き物である。後ろ足は生えてくるが前足は皮膚の下であらかじめ出来上がった足が出てくるという違い。案外知らないことも多く興味を持つだろう。



81. どんぐりかいぎ

④

(文) こうや すすむ

(絵) 片山 健

福音館書店

「どんぐりが たくさん おちているところを みたことが ありますか。きたのもりでは どんぐりは たくさんなるとし とすこししか ならない とし が1年おきにあります」なぜこのように「なりどし」と「ふなりどし」が交互にあるのか。森の動物達の暮らし方とどんぐりの木との関係が美しい季節の変化を通して語られていく。動物の数が増えすぎないように、森の中からどんぐりの木がなくならないようにバランスがとられていることに気づいていく。

どんぐりの木の話しことばから子ども達にもどんぐりの実の「なりどしとふなりどし」のあることが理解できる。大きな親木おやきの下に緑の若木わかきが芽生えている場面は特に印象的だ。



82. ほんのおおきさ動物園

④

(監修) 小宮 輝之

(写真) 福田 豊文

学研

動物の顔や体を、実物大の写真で見せる大迫力の絵本である。実際の大きさが分かるだけでなく、毛の生え方や筋肉のつき方等、動物の質感までも手に取るように感じることができる。動物がまるで目の前にいるような感覚が味わえ、子ども達は、予想通り大きな写真に驚きの声をあげ、動物の数を数える等、自然に内容に入り込んでいた。

小さなネズミから大きなゾウまで21の動物が登場する。体の形で場面が縦横に変化し、巨大なキリンやゾウ、サイはワイドページになっている。そのため、子ども達は飽きずに動物の特色を確かめることができる。また、子どもに限らず、どの世代が読んででも発見があり、物事を考えるきっかけになる内容となっている。

動物に対する認識を深めつつ、楽しさも共有して読んでほしい。



83. みずとはなんじゃ？

④

(文) かこ さとし

(絵) 鈴木 まもる

小峰書店

男の子・女の子・幼い男の子の三兄弟と猫が登場し、暮らしの中で出会う。水の不思議な性質を知り、自然環境に目を向けるきっかけとなるような心を育む絵本。さまざまな例が紹介されていく。

素直で温かい絵ともあいまって、三兄妹といっしょに「みずとはなんじゃ？」と子どもの好奇心を楽しくふくらませていくことができる。

「みず」という日常当たり前のものが、実はとても大切で不思議なものであるということ、身近な事象から始まり、作者らしい大きな世界につなげていくという構成になっている。



84. 雪の上のなぞのあしあと

④

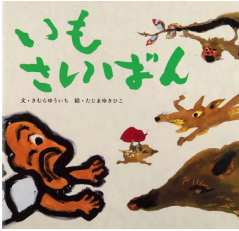
(文)・(絵) あべ ひろし

福音館書店

北海道旭川の有名な動物園。冬、休園していた頃の出来事！動物が大好きな飼育係は、一人ぼっちの宿直も大喜び。ぞう、ゴリラ、カバ…と夜の動物園を楽しそうに見回る。ある夜、氷点下27℃の大雪の上に、不思議な足あとが。夜の動物園の様子を楽しんでいた子ども達もはてな？ 本で調べて、応援の飼育係にも来てもらい、見回ると、あざらしの動いたあとだった。大雪のせいでプールから出て自由に動き回ったあざらしの腹あと。ということで子ども達もほっとして納得の笑顔。

子ども達の大好きな動物の夜の様子や飼育係の仕事を理解するだけでなく、ミステリアスな足あとの事件も楽しめる。

作者の動物達への愛をいっぱい感じられる話だ。



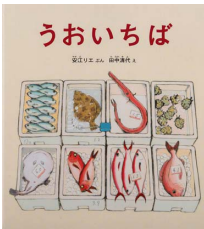
85. いもさいばん

⑤

(文) きむら ゆういち
(絵) たじま ゆきひこ
講談社

畑に立派な芋が育ち、じいさん達は大喜び。ところが、芋が盗まれる。そこで、じいさんが罠を仕掛けるが失敗。失敗しては違う手口で罠を仕掛ける。この繰り返しに、子ども達は笑いながら興味津々。ついに犯人を見つけたじいさんは、森の動物達と論争に。じいさんは、自分の畑で丹精込めて育てたのだから、芋は自分の物だと主張。動物達は、地面も山も川も空も人間だけの物ではない。芋は自分で育ったと主張。先に住んでいたのは…。言い争いが続くにつれ、子ども達の表情も真剣になる。

迫力満点の絵とテンポのいい物語の展開が、おもしろさから素直な疑問へと導く。自然の恵みを受けて暮らす人間と動物。異なる立場の論理が、会話を通して分かりやすく表現され、読者にも問題を投げ掛ける。さて、人間と動物達、泥棒は一体どっちだろう。



86. うおいちば

⑤

(文) やすえ 安江 リエ
(絵) 田中 きよ 清代
福音館書店

まだ暗く寒い冬の朝の「うおいちば」での出来事である。女の子きよは、魚市場で働くおじいちゃんに連れられて初めて魚市場へ行く。トラックや船で運ばれて水揚げされる魚や忙しそうに働く沢山の人達を見て目を丸くする。おばあちゃんの好きな金目鯛をさがしあてた時のきよの喜びの顔や見開き2ページにでんと描かれた迫力いっぱい金目鯛に、子ども達はぐっと身をのりだしてきた。

知識・理解の助けになるだけでなく、魚が自分達の口に入るまでの過程や朝の魚市場のにぎわいや働く人々の苦労や楽しみなどが子ども達の心に残っていくだろう。

巻末には魚の名前も紹介しており、興味が広がりやすい。



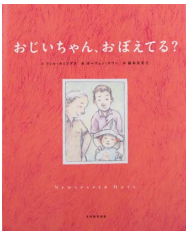
87. ええところ

⑤

(文) くすのき しげのり
(絵) ふるしょう ようこ
学研

「わたしには『ええところ』なんかひとつもない」と言うあいちゃん。子ども達はさみしそうな表情である。仲よしのともちゃんに尋ねると「あいちゃんのいいところは手があったかいところ。」という返事。冷たいふき掃除の後みんなの手を温めるあいちゃん。ともちゃんの番になると「あいちゃんの手つめたいわ。」と言われる。良い所がなくなったあいちゃんは涙を流す。でも、ともちゃんは「あいちゃんのええところは、みんなにやさしいところ。」と言ってくれた。あいちゃんは自分の良い所を見つけてくれたともちゃんが一番やさしいと思った。

友達の良い所を見つけるのは、なんと楽しいことだろう。人の良い所を見つけること、自分の良い所を言ってもらうこと。より良い人間関係をつくる基本である。1年生に是非読み聞かせたい。



88. おじいちゃん、おぼえてる? ⑤

(文) フィル・カミングス
(絵) オーウェン・スワン
(訳) 福本 友美子
光村教育図書

認知症のため施設で暮らしている祖父のもとを訪れた孫娘ジョージーは、家族の中で自分のことだけを忘れてしまっていることを知る。祖父の記憶に添って、「わたしのことおぼえてる?」と幾度も問いかけて、自分を思い出すきっかけを探る。かわいがってくれた祖父に忘れられてしまう切なさが子ども達にも伝わったのか、何とか思い出してほしいと願う様子が感じられた。

表紙と裏表紙の内側に祖父がまだ若い時の新聞の鉛筆画が丹念に描かれていて、これがキーポイントである。新聞紙で作った帽子が祖父とジョージーの共通の思い出であり、二人をつなぐものとなる。

社会の高齢化に伴い、身内に認知症の人がいる子もいる。この本は、大好きな祖父に向き合う孫娘のやさしさを通して、認知症について考えるきっかけとなるだろう。

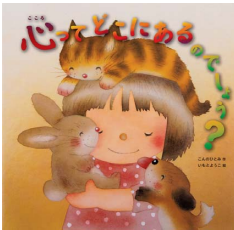


89. おしっこちょっぴりもれたろう ⑤

(文)・(絵) ヨシタケ シンスケ
PHP研究所

本を見せた途端、みんなニヤニヤ。心当たりがあるのか。「おしっこをするまえかしたあとに…おこられる」では、間に合わなかったのか、ちょっとかわいそう、という気持ちになる。乾くまで冒険にでかける。そしていろいろな人を観察する中で本人しか分からない困り事があることを発見する。パンツが乾いたので家に帰り、おしっこをしてパンツをはいて、またもれたろうになってしまうべく。しかしその時のおじいちゃんのことばが素晴らしい。

今話題のヨシタケシンスケの1冊、子どもだけでなくおとなが読んでも楽しい。おじいちゃんの「ワシもちょっぴりもれたろうなんじゃ」で、お母さんのやさしい顔が心に残る。



90. 心ってどこにあるの？ ⑤

(文) こんの ひとみ
(絵) いもと ようこ
金の星社

元気いっぱいの子ども達。自分の身体の頭・手・足などは、目で見て、さわって、動かして、具体的に確認できる。「では、心はどこにあるの」と尋ねると、「胸」と大多数の子ども達は答える。

読みすすめていくと、犬はしっぽに、うさぎはみみに、たぬきはおなかに…と、さまざまな意見が出てくる。子ども達は心はいろいろなところにあるんだなあ気づいていくだろう。

おとなでも「心ってどこにあるの？」といわれると一瞬とまどう。「心はどこにあるのか？」という思いを「こんのひとみ・いもとようこ」コンビが、温かい文と絵でおくる1冊である。



91. すごいね! みんなの通学路 ⑤

(文) ローズマリー・マカーニー
(訳) 西田 佳子
西村書店

世界のさまざまな地域に住む子ども達の通学風景を写真で収めた写真絵本である。

学校まで遠い道のりを歩いて通う子ども。川の急流、けわしい山道、高いがけ、自分の机や飲み水が入った重いたらいを運んでいく子ども。

本を読んだ子ども達は驚くばかりであるが、さまざまな地域の子供達が、友達に会える、学ぶことが楽しいと思ひ、困難な通学をしているのだと感想を述べるとともに、親や地域の方々に見守られ通学するしあわせを改めて感じる。

写真絵本で、説得力がある。世界の通学路を知ることから、子ども達の知識の視野の広がりを期待したい。



92. だいすきなおばあちゃん ⑤

(文) 日野原 重明
(絵) 岡田 千晶
朝日新聞出版

この絵本の主人公マリちゃんには、大好きなおばあちゃんがいる。おばあちゃんは、指の話をしてくれたり、おはしの持ちかたを教えてくださいました。でも、おばあちゃんは、だんだん体が弱っていき、自宅で死を迎える。大好きなおばあちゃんの死を悲しみ、受け入れることができないマリちゃんだが、「おばあちゃん、ありがとう」と心からの感謝の気持ちを伝える。

人間、いつかはみんな最期がきて死ぬものである。自宅で亡くなってゆくお年寄りを看取るということは、子どもが「死」を知り、「死」について考えるきっかけとなるかけがえのない体験だ。この絵本が子ども達への良きプレゼントになるようにと作者は願っている。より多くの子ども達に、読み聞かせたい。



93. たからものみつけた！

⑤

(文) くすのき しげのり

(絵) 重森 千佳

廣済堂あかつき

お父さんのために、たくさんの木の実を集めたリスくん。でも、集めていた場所が分からなくなってしまう。森の動物達は、リスくんの木の実をいっしょうけんめい探す。初めリスくんは、森のみんなも木の実が好きだから「食べよう」と言うかもしれないと心配する。が、本当に親身になって助けてくれる友達の姿に心からありがとうという気持ちでいっぱいになる。本当の「たから物」に気づいたリスくんに、子ども達もほっとした表情だ。みんなでやさしい時間を共有することができた。

主人公の心の変化を追いつつ読みすすめることができ、自分だったらどう思うか、どのようにするかと考えさせられる。前後の扉の絵が対比していてもおもしろい。また動物達や秋の森の様子が、色彩豊かに描かれていて、とても美しい絵本となっている。



94. タンポポ あの日をわすれないで

⑤

(文) 光丘 真理

(絵) 山本 省三

文研出版

2011年3月11日、いつもと同じ平和な一日がスタートした。しかし、午後2時46分、東北地方に激しい地震が起こり、巨大な津波が町を襲った。その時の恐怖や苛酷な避難生活をおくる主人公まいの様子を、子ども達はじっと聞き入っていた。家族を津波で失った親友のさきが転校する日、二人は校庭のタンポポをつみながら、笑顔で再会を約束した。その場面で、子ども達はほっとした表情になっていた。

取材中に被災した作者は、1週間避難生活を経験した。3か月後、再び訪れた小学校で、笑顔につつまれた子ども達に出会い、校庭に咲き乱れるタンポポを目にした。その体験をもとに、「タンポポの綿毛となってあちこちにとんでいき、明るい笑顔の花がたくさんさきますように！」との思いを込めて描かれた絵本である。



95. ちっちゃなトラックレッドくん ⑤

(文)・(絵) みやにし たつや
ひさかたチャイルド

ちっちゃな赤いトラックレッドくんは、物を運ぶのが仕事。ためきさんの荷物をうさぎさんの家に届ける途中、怒られたりどなられたり。応援してくれる人達もいて、困難を乗り越えやっとうさぎさんの家まで行ったが、荷物を落とし、あたり一面にばらまいてしまう。でもそれは、とてもステキなものだった。話の途中で、ハラハラドキドキさせられる場面もあったが、子ども達は、荷物の中身がとてもステキなものだったことに気づき、ほっとした様子を見せていた。また、登場するいろいろな車に興味をもち、知っている車の名前を口にしていた。

子ども達が共感するかわいい車が登場する。速くなくても力がなくても、それぞれが大事な存在であることをそっと教えてくれる絵本である。



96. てをつなぐ

⑤

(文)・(絵) 鈴木 まもる
金の星社

表紙に描かれた様々な手。子ども達の目が釘付けになる。「お父さんの手や」「赤ちゃんの手も！」と口々に言い合う。そのなかに動物の手も含まれていることに気づく。「ぼくはかあさんとてをつないだ」から始まり、家族、色々な職業の人、外国人、動物達が次々と手をつなぐ。「つぎはだれのとかな？」という作者の問いかけに子ども達は興味津々、身を乗り出して絵を見つめる。

「ちがってたっていいんだ」「ちきゅうのうえにいきてるのはいいんだよ」という記述から、誰もが生きとし生けるものはすべてつながっている、お互い生かし生かされている、自分もそのつながりの一員であることに気づくであろう。そして最後のページの「てをつなぐとあたたかい」「てをつなぐとうれしくなる」という文章を読み終えた後は、心の中までほっこり温かくなるだろう。



97. どんなかんじかなあ

⑤

(文) 中山 千夏

(絵) 和田 誠

自由国民社

「まりちゃんはめがみえない。みえないってどんなかんじかなあ。しばらくめをつぶってみる。なんてたくさんいろいろなおと!! ぼくはおどろいてめをあけた」本の題名に?の表情だった子ども達が興味をもちはじめ。耳が聞こえないさのくん、両親がいないきみちゃん、動けないぼく。それはどんな感じなのかと考え、出来ないことのために出来るようになったすごい力を発見していく。

ハンディがあることに、おとなは「かわいそう」と接しがちである。この絵本は、子ども自らどんな感じかなあと考え、出来ないことから生みだされたすごい力に驚いて、感心する。「よりそう」とは、こんな姿勢だろうと思わせられる。

鮮明な一色をバックにして、切り絵のように描かれているそれぞれの子どもに、その素朴な気持ちがよく表現されている。



98. はなちゃんのみそ汁

⑤

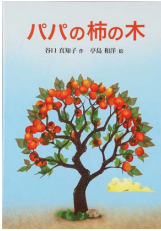
(原作) 安武 信吾・千恵・はな

(文)・(絵) 魚戸 おさむ

講談社

小学生のはなちゃんが5時に起きて、パパといっしょにみそ汁を作るところから話は始まる。はなちゃんが5才になった時、ママはみそ汁作りを教え出す。包丁の使い方、材料の切り方…みそ汁が作れるようになると、洗濯、掃除と家事は広がる。自宅療養にまでなったママに、ピアノを聞かせてあげるはなちゃん、それを喜ぶママ。しかし死は確実にやって来る。ママ亡き後のパパの落ち込みもはなちゃんの目を通して語られる。パパを元気にするために、はなちゃんは今日もみそ汁を作るのだ。

実話だけに、母の深い愛がずっしりと胸に響いて来る。生と死を通して人生の理不尽さに向き合いながらも、それははねのけてより良く生きていこうとするはなちゃんと、それを支える父母の想いが素直に心に届く絵本である。



99. パパの柿の木

(文) 谷口 真知子
(絵) 亭島 和洋
星湖舎

パパはいつも夕食の時にママの作るおいしいごはんを食べながら「おれの子どもたちは世界一だ！」とうれしそうに言う。ぼく達みんな笑顔と幸福な四大家族の話からはじまる。そしてパパは子ども達のために柿の木を植える。海水浴、バーベキューと楽しい日々が続いていたが、突然日航機事故でパパは亡くなった。

柿の木は懸命に生きぬいた子どもの成長を見守る。成長した子ども達は、結婚しパパになる。娘を抱きしめながら「おれの子どもたちは世界一だ！」といったパパの気持ちを理解した。

身近な父母の死を実感するには時間がかかるかも知れないが、いつ起きるか分からない事と実話であるので説得力がある。

同時に母の死についてもふれて実話「はなちゃんのみそ汁」をとりあげること考えられる。



100. わたしのそばできいて

(文)・(絵) リサ・パップ
(訳) 菊田 まりこ
WAVE出版

国語の時間にうまく本を読めなくて合格マークがもらえない少女マディは、母と行った図書館で、犬に本を読んであげてくれることをすすめられた。白い犬ポニーはマディの膝に大きな前足をのせ、ことばが出てくるのをただ静かに待ってくれた。マディは気持ちが楽になり、まちがいを気にせず、楽しく本を読むことができた。やがて国語の時間に合格マークをもらえた。「よかった」と安堵する子ども達の気持ちが伝わってきた。

人前で読んだり話したりすることがうまくいかない時、人がことばで励ましてよくなるとは限らない。ものいわぬ動物のやさしさに助けられることがあるのだ。

読書介助犬は1999年アメリカで始まったアニマルセラピーの一種で、日本の図書館でもその活動が少しずつ広がっているようだ。

読み聞かせ絵本適書100選 第8集 (五十音順)

		分類番号	ページ
ア	あいたくてあいたくて……………	①	10
	あかいはねのふくろう……………	③	31
	あかねこくん……………	③	32
	あしのうらのはなし……………	④	43
	あな……………	①	10
イ	あむ……………	①	11
	いそっぷのおはなし……………	③	32
	いっしよだよ……………	④	43
	いのちのたべもの……………	④	44
	いもさいばん……………	⑤	52
ウ	うおいちぼ……………	⑤	52
	うさこのサンタクローズ……………	①	11
	うまれたよ！ モンシロチョウ……………	④	44
	うみのポストくん……………	①	12
	ええところ……………	⑤	53
オ	おいもができた……………	④	45
	おうさまのくつ……………	③	33
	オオカミのごちそう……………	①	12
	おかしなゆき ふしぎなおこり……………	④	45
	おこる……………	①	13
	おじいさんと10びきのおばけ……………	①	13
	おじいちゃん、おぼえてる？……………	⑤	53
	おしっこちょっぴりもれたろう……………	⑤	54
	おしりポケット ウォンパットのあかちゃん……………	④	46
	おなかのこびと……………	④	46
カ	おにのおにいさん……………	①	14
	おにはうち ふくはそと……………	②	29
	おもちのおふろ……………	①	14
	かかしのじいさん……………	①	15
	かさぶたくん……………	④	47
キ	風の子しりとり……………	①	15
	きつねくんのもりのおともだち……………	③	33
	きつねのホイティ……………	③	34
ク	きょうはそらにまるいつき……………	①	16
	くだもの……………	④	47
	くもりのちははれ せんたくがあちゃん……………	①	16
コ	こいぬのうんち……………	③	34
	心ってどこにあるのでしょうか？……………	⑤	54
	コッケモーモー！……………	③	35
サ	サラダとまほうのおみせ……………	①	17
	さるのてぶくろ……………	①	17
シ	しずかなしずかなクリスマス・イヴのひみつ……………	③	35
	シナの五にんきょうだい……………	③	36
	しまふくろうのみずうみ……………	①	18
	じめんのしたの小さなむし……………	④	48
	じゅうにしのおはなし……………	②	29
ス	10ぼんのぶりぶりソーセージ……………	③	36
	すえっこおおかみ……………	③	37
	すごいね！ みんなの通学路……………	⑤	55

	分類番号	ページ
	ずどんといっばつ すていぬシンプ だいかつやく……………③	37
セ	ゼラルダと人喰い鬼……………①	38
ソ	ぞうきばやしのスもうたいかい……………①	18
	ぞうさんのふしぎなぼうし……………①	19
	そらの100かいだてのいえ……………①	19
タ	だいすきなおばあちゃん……………⑤	55
	たいふうがくる……………①	20
	だいぶつさまのうんどうかい……………①	20
	たからものみつけた！……………⑤	56
	たべられたやまんば……………②	30
	たまごのはなし……………④	48
	ダンゴムシ……………④	49
	たんぼのカエルのだいへんしん……………④	49
	タンポポ あの日をわすれないで……………⑤	56
チ	ちいさいきみとおおきいぼく……………③	38
	ちっちゃなトラックレッドくん……………⑤	57
	チトくんと にぎやかないちば……………③	39
	ちゅーちゅー……………①	21
	チリンのすず……………①	21
テ	手おけのふくろう……………①	22
	てをつなぐ……………⑤	57
ト	どこへいくの？ ともだちにあいにく……………①・③	22
	ともだちほしいなおおかみくん……………①	23
	どろんここぶた……………③	39
	どんぐりかいぎ……………④	50
	とんでもない……………①・⑤	23
	どんなかんじかなあ……………⑤	58
ハ	はなちゃんのみそ汁……………⑤	58
	パパの柿の木……………⑤	59
ヒ	ピーターのいす……………③	40
	ひとりぼっちのかえる……………③	40
	ヒヒヒヒヒ うまそう……………①	24
フ	ふしぎなともだち……………①	24
	ふぶきのとおり……………①	25
ヘ	へんしんトイレ……………①	25
ホ	ほうまんの池のカッパ……………②	30
	ほとんほとんはなんのおと……………①	26
	ポレポレやまのぼり……………①	26
	ほんとうはなかよし～エルモアとアルパート～……………③	41
	ほんとうのおおきき動物園……………④	50
マ	まぼろしのゆきのはらえき……………①	27
	まめつぶごぞうパトウフェ……………③	41
ミ	みずとはなんじゃ？……………④	51
ヤ	やさいのおしゃべり……………①	27
	やまなしもぎ……………②	31
	山のとしょかん……………①	28
ユ	ゆうたはともだち……………①	28
	ゆかいなかえる……………③	42
	雪の上のなぞのあしあと……………④	51
ワ	わたしのそばできいて……………⑤	59
	わたしをわすれないで……………③	42

2020 読み聞かせ絵本適書100選 第8集

発行年月日 2020年2月1日

編集・発行者 一般財団法人 兵庫県学校厚生会
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通4丁目7番34号
電話 (078) 331-9955 (代表)

印刷所 福田印刷工業株式会社
〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町4丁目6番3号
電話 (078) 811-3131
